

地域生物多様性 増進活動の手引き (提出書類、記載例編)



～地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する
法律に基づく認定申請に向けて～



第1章 はじめに	5
第2章 提出書類の構成	5
I. 増進活動実施計画の必須様式	5
II. 連携増進活動実施計画の必須様式	5
III. 特例措置※を活用する場合のみ提出（増進計画・連携計画で共通）	5
IV. 自由様式（増進計画・連携計画で共通）	6
V. 複数の活動類型、複数サイトの申請方法について	7
第3章 増進活動実施計画の必須様式	8
I. 様式1-1 増進活動実施計画 認定申請書	8
II. 様式1-1 別紙1 暴力団排除に関する誓約事項	10
III. 様式1-2 増進活動実施計画（本体）	11
1. 概要	11
2. 実施体制	14
3. その他	16
IV. 様式1-2 別紙1 基本的事項シート	19
1. 概要	19
2. 確認事項	19
（補足）公物等の管理区域ごとの確認方法等	24
V. 様式1-2 別紙1 申請者等記入シート	30
VI. 様式1-2 別紙1 土地所有者等記入シート	31
VII. 様式1-2 別紙1 公物等の管理区域記入シート	32
VIII. 様式1-2 別紙2 サイト詳細シート①活動内容	33
1. 実施区域	33
2. 活動内容	35
IX. 様式1-2 別紙2 サイト詳細シート②サイトの状況等	42
1. サイトの基礎情報	42
1. サイトの基礎情報（区域図）	44
1. サイトの基礎情報（全体写真）	45
2. サイトの生物多様性の状況	46
3. 関連情報（生態系サービス）	52
4. 追加写真用シート	53
5. 写真の撮影位置	53
6. サイトの追加情報	53
X. 様式1-2 別紙3 認定された場合の確認事項	54
XI. 様式1-3 活動計画概要	56
XII. 様式4-1 特例措置の活用に関する事項	56
第4章 添付書類	57
I. 添付1 GIS データ	57

II. 添付2 生物多様性の現況	58
III. 添付3 公物等の管理区域に関する記録.....	61
IV. 添付4 モニタリング計画	62
V. 添付5 整備計画等資料.....	63
VI. 添付6 協議会・意思疎通方法	63
VII. 添付7 所有・賃貸関係（期限がある場合）	63
VIII. その他添付資料	64
第5章 特例措置を活用する場合のみ提出（様式4-2～4-6）	65
I. 様式4-2 行為規制等	65
1. 自然公園法	65
2. 自然環境保全法.....	66
3. 種の保存法	67
4. 鳥獣保護管理法.....	68
5. 都市緑地法	68
II. 様式4-3 生態系維持回復事業	69
III. 様式4-4 保護増殖事業	69
(1) 個別法に関する問い合わせ先	70
(2) 添付書類	70
IV. 様式4-5 特定外来生物の防除.....	70
(1) 個別法に関する問い合わせ先	70
(2) 添付書類	70
V. 様式4-6 伐採等の届出	71
(1) 添付書類	71
(2) 留意事項	71
第6章 連携増進活動実施計画の必須様式	72
I. 様式2-2 連携増進活動実施計画（本体）	72
1. 概要	72
4. 連携地域生物多様性増進活動の促進のために必要な事項	72
II. 別紙1 連携活動実施者記入シート.....	74
第7章 参考資料集	75
I. 認定申請書.....	75
1. 増進活動実施計画 様式一式	75
2. 連携増進活動実施計画 様式一式.....	75
3. 同意書フォーマット	76
4. 特例措置を活用する場合	76
II. 手引き、活動手法、モニタリング手法.....	77
III. GIS 作成マニュアル	78
IV. 認定後の手続き様式	78

V. 制度概要 79

第1章 はじめに

この別紙では、増進活動実施計画及び連携増進活動実施計画の申請に当たって必要な提出書類の詳細について整理したものです。

第2章 提出書類の構成

提出書類については、以下のとおりです。

I. 増進活動実施計画の必須様式

番号	書類名	備考
様式1-1	増進活動実施計画 認定申請書	
別紙1	暴力団排除に関する誓約事項	様式1-1と同じWordファイル
様式1-2	増進活動実施計画	
別紙1	基本的事項	様式1-2と同じExcelファイル
別紙2	サイト詳細シート	様式1-2と同じExcelファイル 複数の類型が存在する場合、類型ごとに整理
別紙3	認定後の確認事項	様式1-2と同じExcelファイル
様式1-3	活動計画概要	PowerPoint
様式4-1	特例措置の活用に関する事項	特例措置を活用しない場合を含め、提出必須

II. 連携増進活動実施計画の必須様式

番号	書類名	備考
様式2-1	連携増進活動実施計画 認定申請書	
別紙1	暴力団排除に関する誓約事項	様式2-1と同じWordファイル
様式2-2	連携増進活動実施計画	
別紙1	基本的事項	様式2-2と同じExcelファイル
別紙2	サイト詳細シート	様式2-2と同じExcelファイル 複数の類型が存在する場合、類型ごとに整理
別紙3	認定後の確認事項	様式2-2と同じExcelファイル
様式2-3	活動計画概要	PowerPoint
様式4-1	特例措置の活用に関する事項	特例措置を活用しない場合を含め、提出必須

III. 特例措置※を活用する場合のみ提出（増進計画・連携計画で共通）

番号	書類名	備考
様式4-2	行為規制等に関する特例に関する事項	自然公園法、自然環境保全法、種の保存法、鳥獣保護管理法、都市緑地法の許可・届出等に関

		する特例を活用しようとする場合のみ、提出
様式 4－3	生態系維持回復事業に関する事項	以下に関する特例を活用しようとする場合のみ、提出 ・自然公園法に基づく国立公園又は国定公園における生態系維持回復事業の確認又は認定の特例 ・自然環境保全法に基づく自然環境保全地域における生態系維持回復事業の確認又は認定の特例
様式 4－4	保護増殖事業に関する事項	種の保存法に基づく保護増殖事業の確認又は認定の特例を活用しようとする場合のみ、提出
様式 4－5	特定外来生物の防除に関する事項	外来生物法に基づく特定外来生物の防除の確認又は認定の特例を活用しようとする場合のみ、提出
様式 4－6	伐採等の届出に関する事項	森林法に基づく伐採及び伐採後の造林の届出の特例を活用する場合のみ、提出

※ 特例措置の詳細については、本手引き「第 5 章 特例措置を活用する場合のみ提出（様式 4－2～4－6）」をご参照ください。

IV. 自由様式（増進計画・連携計画で共通）

番号	書類名	備考
添付 1	GIS データ	必須。Shape、KML 等
添付 2	生物多様性の現況	活動類型が維持タイプのみ必須。実施区域内で確認された動植物リスト等
添付 3	公物等の管理区域に関する記録等	実施区域と公物等の管理区域の重複がある場合、協議に関する記録や同意書等を提出。様式 3 同意書サンプルを参照。
添付 4	モニタリング計画	※様式 1－2 または 2－2 に記載しない場合は必須
添付 5	整備計画等資料	実施区域で整備計画等がある場合に提出。
添付 6	協議会・意思疎通方法	協議会等を設置している場合に提出。
添付 7	所有・賃貸関係（期限がある場合）	土地の所有や賃貸借に期限が存在する場合に提出。

※ 上記の添付書類のほか、土地の所有者等の同意書、関連する計画（森林経営計画、TSUNAG の申請書類等）など、計画に関連して追加で添付した書類があれば、提出してください。

※ 公物等の管理区域の詳細については、本手引き「第 3 章 IV 様式 1－2 別紙 1 基本的事

項シート 番号 4 計画に係る実施区域と公物等の管理区域との重複が存在するか。公物等の管理者に申請に関する同意等を得ているか」をご参照ください。

V. 複数の活動類型、複数サイトの申請方法について

- ・維持タイプ・回復タイプ・創出タイプの活動類型について、1つの計画で複数の活動類型を申請する場合は「別紙3 サイト詳細シート①活動内容」及び「別紙3 サイト詳細シート②サイトの状況等」を活動類型ごとに作成してください。
- ・1つの計画に複数の活動類型がある場合、計画は1つの計画として認定し、サイトとしては活動類型ごとに1箇所のサイトと考えます。
- ・連携増進活動実施計画については、複数サイトが協議会の設立等により有機的な連携があると判断される場合には、市町村単位レベルでの範囲内（同一市町村内又は隣接する市町村等）で離れているものも1つの計画としてまとめることが可能です。ただし、「様式2-1 連携増進活動実施計画 認定申請書」以外は各サイトごとに整理して作成してください。

第3章 増進活動実施計画の必須様式

I. 様式1-1 増進活動実施計画 認定申請書

<記載例>

増進活動実施計画 認定申請書

2026年 4月 1日

環境大臣 殿
農林水産大臣 殿
国土交通大臣 殿

代表申請者

住 所 ●●県△△市××
団体名・氏名 ○○株式会社 環境 太郎

地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律第9条第1項の規定に基づき、別紙の計画について認定を受けたいので、申請します。

(備考)

- 代表申請者が法人その他の団体の場合には、「住所」には「主たる事務所の所在地」を「団体名・氏名」には「団体名称及び代表者の氏名」を記載すること。
- 添付書類
以下の書類を添付すること。下表において、添付した書類にチェックマークを打つこと。
各添付書類の詳細や該当性の考え方については、「地域生物多様性増進活動の手引き」を参照すること。

(指定様式のうち必須)

確認欄	番号	書類名	備考
✓	様式1-1	増進活動実施計画 認定申請書	
✓	別紙1	暴力団排除に関する誓約事項	様式1-1と同じWordファイル
✓	様式1-2	増進活動実施計画	
✓	別紙1	基本的事項	様式1-2と同じExcelファイル
✓	別紙2	サイト詳細シート	様式1-2と同じExcelファイル 複数の類型が存在する場合、類型ごとに整理
✓	別紙3	認定後の確認事項	様式1-2と同じExcelファイル
✓	様式1-3	活動計画概要	PowerPoint
✓	様式4-1	特例措置の活用に関する事項	特例措置を活用しない場合を含め、提出必須

(指定様式のうち特例を活用する場合のみ提出)

確認欄	番号	書類名	備考
✓	様式 4-2	行為規制等に関する特例に関する事項	該当の場合のみ
□	様式 4-3	生態系維持回復事業に関する事項	該当の場合のみ
□	様式 4-4	保護増殖事業に関する事項	該当の場合のみ
□	様式 4-5	特定外来生物の防除に関する事項	該当の場合のみ
□	様式 4-6	伐採等の届出に関する事項	該当の場合のみ

(自由様式)

様式は問わないが、どのファイルが該当するかわかるようにファイル名もしくはフォルダ名の最初に下表の番号を付けること。

確認欄	番号	書類名	備考
✓	添付 1	GIS データ	必須。Shape、KML 等
✓	添付 2	生物多様性の現況	維持タイプのみ必須
✓	添付 3	公物等の管理区域に関する記録等	該当の場合のみ。様式 3 同意書サンプルを参照。
✓	添付 4	モニタリング計画	※様式 1・2 に記載しない場合は必須
□	添付 5	整備計画等資料	該当の場合のみ
□	添付 6	協議会・意思疎通方法	該当の場合のみ
□	添付 7	所有・賃貸関係	該当の場合のみ

(その他添付資料)

上記の添付書類のほか、土地の所有者等の同意書、関連する計画（森林経営計画、TSUNAG の申請書類等）など増進活動実施計画に関連して追加で添付した書類があれば提出すること。

<記載のポイント>

ア 代表申請者

申請者が法人その他団体の場合は、住所欄に「主たる事務所の所在地」をご記入ください。また、「団体名・氏名」には「団体名（法人名）及び代表者氏名」をご記入ください。

また、旧姓での申請も可能です。旧姓での申請をする場合は、申請書等の氏名欄において、旧姓を括弧書きで併記してください。

イ 提出物チェック表

提出が必須の表「指定様式のうち必須」、特例を活用する場合の表「指定様式のうち特例を活用する場合のみ提出」とその他提出物「自由様式」に分けております。提出する資料にチェックをしてください。「その他添付資料」も併せてご確認ください。

II. 様式 1－1 別紙 1 暴力団排除に関する誓約事項

共同申請者がいる場合、代表申請者のみの提出で構いません。

<記載例>

様式 1－1 別紙 1

暴力団排除に関する誓約事項

西暦 2026 年 4 月 1 日

氏名又は団体名称 ○○環境株式会社

代表者氏名 環境 太郎

下記事項について、申請書の提出をもって誓約いたします。

この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより、不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

また、官側の求めに応じ、役員名簿（有価証券報告書に記載のもの（生年月日を含む。））。ただし、有価証券報告書を作成していない場合は、役職名、氏名及び生年月日の一覧表）及び登記簿謄本の写しを提出すること並びに提出書類から確認できる範囲での個人情報情報を警察に提供することについて同意します。

記

1. 申請者、土地所有者及び関係者は次のいずれにも該当しません。また、将来においても該当することはありません。

（1）申請者、土地所有者及び関係者として不適当な者

ア 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 77 号）第 2 条第 2 号に規定する暴力団をいう。以下同じ）又は暴力団員（同法第 2 条第 6 号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき

イ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき

ウ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき

エ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき

（2）申請者、土地所有者及び関係者として不適当な行為をする者

ア 暴力的な要求行為を行う者

イ 法的な責任を超えた不当な要求行為を行う者

ウ 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為を行う者

エ 偽計又は威力を用いて会計課長等の業務を妨害する行為を行う者

オ その他前各号に準ずる行為を行う者

2. 暴力団関係業者を申請するサイトに関して締結する全ての契約の相手方としません。

3. 申請するサイトに関して締結する契約の相手方が暴力団関係業者であることが判明したときは、当該契約を解除するため必要な措置を講じます。

4. 暴力団員等による不当介入を受けた場合、又は申請するサイトに関して締結する契約の相手方が暴力団員等による不当介入を受けたことを知った場合は、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うとともに、事務局へ報告を行います。

以 上

III. 様式 1-2 増進活動実施計画（本体）

複数の活動類型がある場合、本体シートについては全タイプに関する内容をご記入ください。

1. 概要

（１）増進活動実施計画の名称

<記載例>

（１）増進活動実施計画の名称 (40文字以内)	（フリガナ） マルマルノモリサトヤマホゼンカツドウジッシケイカク
	計画名称 ○○の杜里山保全活動実施計画

<記載のポイント>

計画名及び計画名のフリガナを記入してください。計画名は最大 40 文字以内に収まるようにしてください。

（２）計画期間

<記載例>

（２）計画期間	<input type="radio"/> 認定日～5年 <input checked="" type="radio"/> 認定日～指定の期日 西暦 2029 年 3月迄
---------	--

<記載のポイント>

認定決定日から5年間の計画の場合は「認定日～5年間」を選択してください。それ以外の計画の場合は、「認定日～指定の期日」を選択し、具体的な計画期間を西暦で記入してください。

（３）代表申請者

<記載例>

（３）代表申請者	○○株式会社
----------	--------

<記載のポイント>

代表申請者を記入してください。

また、旧姓での申請も可能です。旧姓での申請をする場合は、申請書等の氏名欄において、旧姓を括弧書きで併記してください。

（４）共同申請者

<記載例>

（４）共同申請者	○○の杜の自然を守る会
----------	-------------

<記載のポイント>

共同申請者がいる場合は記入してください。いない場合は空欄にしてください。

また、旧姓での申請も可能です。旧姓での申請をする場合は、申請書等の氏名欄において、旧姓を括弧書きで併記してください。

(5) 実施区域

<記載例>

(5) 実施区域	サイト名称 ○○の杜			
	サイト住所 東京都千代田区霞が関1234-5678		サイト面積 100.01 ha	
	都道府県及び市町村			
	※実施区域が複数の都道府県・市町村にまたがる場合は、実施区域が所在するすべての都道府県及び市町村を記載すること			
	都道府県1 東京都	市町村1 千代田区	複数市町村の場合 1以外の市町村名	港区
	都道府県2	市町村2	複数市町村の場合 2以外の市町村名	
	都道府県が3つ以上にまたがる場合など			
	生態系タイプ			
	森林 (<input type="checkbox"/> 天然林 / <input checked="" type="checkbox"/> 里山林 / <input checked="" type="checkbox"/> 人工林)			
	草原 (<input type="checkbox"/> 自然草原 / <input checked="" type="checkbox"/> 二次草原・草地)			
農地 (<input checked="" type="checkbox"/> 水田 / <input type="checkbox"/> 畑・果樹園・牧草地)				
都市 (<input checked="" type="checkbox"/> 創出緑地)				
陸水域 (<input type="checkbox"/> 河川・湖沼 / <input type="checkbox"/> 高層湿原・中間湿原・湧水湿地 / <input type="checkbox"/> 低層湿原・湿地)				
沿岸域 (<input type="checkbox"/> サンゴ(礁) / <input type="checkbox"/> 藻場・岩礁 / <input type="checkbox"/> 干潟・マングローブ林 / <input type="checkbox"/> 砂浜)				

<記載のポイント>

ア サイト名称

申請するサイトの名称がない場合は、新たに名称を検討し、ご記入ください。

なお、他の主体の権利を侵害するおそれのある名称（区域と何ら関係を有さない商標登録された固有名称や法人・個人が含まれる名称）、公序良俗に反する名称は設定できませんので、ご留意ください。

複数の活動類型をまとめて申請する場合には、活動類型ごとにサイト名称を付けてください。

イ サイト住所

サイトの代表地点の住所を記入してください。複数の活動類型をまとめて申請する場合には、活動類型ごとに代表地点の住所を記入し、どのサイトのものかわかるようにしてください。

また、海域の場合には、「○○県△△市周辺海域」などと記入してください。

ウ サイト面積

100ha 未満のものについては、少なくとも有効数字が2桁以上となるように記入してください（例：85ha、8.5ha、0.85ha、0.085ha）。なお、サイトの面積（ha）は小数点3桁まで記入可能です。

複数の活動類型がある場合、すべての活動類型を含めたサイトの全面積を記載く

ださい。活動類型ごとの個別の面積は「別紙2 サイト詳細シート②サイトの状況等」に記載ください。

エ 都道府県及び市町村

実施区域が所在している都道府県及び市町村を記入ください。実施区域が複数の自治体にまたがっている場合は、またがっているすべての自治体を記入してください。

オ 生態系タイプ（複数選択可）

実施区域に該当する生態系タイプを選択してください。活動類型が複数ある場合、すべての活動類型の生態系タイプを選択してください。
生態系タイプ区分の詳細は以下の資料をご確認ください。

（参考）別紙1 効果が期待できる活動手法（p.24 生態系タイプ区分）

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/IowBio/30by30site-append01-ActivityMethodsEffect.pdf>

（6）活動類型（複数選択可）

＜記載例＞

（6）活動類型	<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の維持 / <input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性の回復 / <input type="checkbox"/> 生物多様性の創出
---------	---

＜記載のポイント＞

該当する活動類型を選択してください。

（7）活動により増進を図る生物多様性の価値（複数選択可）

＜記載例＞

（7）活動により増進を図る生物多様性の価値	維持	回復	創出	※ 活動類型（維持・回復・創出）ごとにおける価値を選択してください。
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/>	対象外	対象外	① 公的機関によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場としての価値
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	対象外	② 原生的な自然生態系が存する場としての価値
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	③ 里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場としての価値
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	④ 生態系サービス提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場としての価値
	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	⑤ 伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場としての価値
	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	⑥ 希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場としての価値
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	⑦ 分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性がある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場としての価値
	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	⑧ 越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場としての価値
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	⑨ 既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場としての価値

＜記載のポイント＞

該当の活動類型ごとに、該当する生物多様性の価値を選択してください。

(8) 申請区域における保全活動の開始年

<記載例>

(8) 申請区域における 保全活動の開始年	西暦	1999 年	1 月
--------------------------	----	--------	-----

<記載のポイント>

活動開始年は認定を受けようとする計画の開始年月日ではなく、実施区域での活動開始年を西暦で記入してください。

(9) WEB サイト (任意)

<記載例>

(9) WEBサイト(任意)	http://XXXX
----------------	-------------

<記載のポイント>

活動内容に関連する WEB サイト等情報があれば URL を記入ください。

2. 実施体制

<記載例>

<実施体制 (役割分担含む)>

申請者が複数の場合や土地所有者等と異なる場合には、それぞれの役割や連携体制等について記載すること。また、申請者ではないが当該活動に主体的に関わる関係者がいればその者を含めて記載すること。

〇〇株式会社：全体管理、日常的な点検、下草刈りや外来種駆除など各種活動の実施。
〇〇の杜の自然を守る会：下草刈りや外来種駆除など各種活動の実施、モニタリングの実施、自然観察会の企画・運営。

<意思疎通の方法>

関係者が単一の場合は記載不要。

〇〇株式会社と〇〇の杜の自然を守る会…月に1回の連絡会議を開催。

<記載のポイント>

申請者が複数の場合や土地所有者等と異なる場合には、それぞれの役割や連携体制等について記入ください。

また、申請者ではないが当該活動に主体的に関わる関係者がいればその者を含めて名称と、それぞれの役割や連携体制等について記入ください。

意思疎通の方法については、頻度や方法を記入ください。

関係者がいない場合はどちらの項目も記入不要です。

(参考) 令和6年度までに認定された自然サイトでの旧申請書の引用方法

令和6年度までに自然共生サイトに認定されたサイトにおいて、前回認定時の申請書を添付して引用する場合は、「別紙のとおり (サイトの基礎情報)」と記入してください。

<実施体制（役割分担含む）>

別紙のとおり（サイトの基礎情報） 以下同じ

<意思疎通の方法>

—

3. その他

(1) 生態系タイプが森林の場合のチェックシート

<記載例>

※生態系タイプに森林が含まれていない場合 (2)へ

① 以下に該当する場合はチェックを入れてください。(いずれかにチェックが入る場合は②への回答は不要です。)

<p>認定を受けた森林経営計画書（「森林の経営に関する長期の方針」別紙、森林の生物多様性を高めるための取組を記載したもの）を添付している</p> <p><input type="checkbox"/> ※森林経営計画の別紙に生物多様性を高める取組の記載がないものは不可</p>
<p>実施区域の全てが国有林である</p> <p><input type="checkbox"/> ※実施区域の一部に民有林を含む場合は、民有林部分について①の他の項目への該当を確認し、該当しない場合は②へ回答してください。</p>
<p>実施区域が森林法に基づく地域森林計画の対象となる民有林ではない</p> <p><input type="checkbox"/> ※都道府県のHPで地域森林計画を確認できますが、わからない場合は、市町村の森林担当部に確認してください。</p>

② 上記①に該当しない場合は、以下のチェックリストに記入してください。

- ・「共通」の項目は、全ての森林において共通して取り組む必要がある項目です。ご自身の活動する森林が、これらの項目に合致していることを確認し、チェックを入れてください。活動内容に伐採等の森林施業を含まない場合にもチェックを入れてください。
- ・「状況別」の項目については、活動内容や活動区域の状況に応じて取り組む項目となっており、ご自身の取組が予定されている場合はチェックを入れてください。
- ・なお、チェックリストに記載のない取組（環境教育やモニタリング等）については、活動計画やモニタリング計画にご記載ください。

項目	チェック欄	活動内容	実施時期	実施場所
共通 全ての森林で各項目への合致を確認し、必ず <u>チェックを入れてください。</u>	<input type="checkbox"/>	活動区域が所在する市町村の「市町村森林整備計画」を確認し、同計画の内容に整合した森林施業を実施する ※市町村の森林担当部とよく連絡調整を図り、市町村森林整備計画と不整合が生じないように努めてください。 ※活動内容に伐採等の森林施業を含まない場合にも、当該森林の通常の管理の状況が市町村森林整備計画と整合しているか確認し、チェックを入れてください。		
	<input type="checkbox"/>	様々な樹種、樹高、林齢、遷移段階（草地、若齢林、壮齢林、老齢林）等から構成される森林配置を計画する ※一つ前のチェック項目（市町村森林整備計画と整合が取れている）にチェックが入っている場合は、基本的に当該項目にも該当すると考えられるため、チェックを入れることができます。		
	<input type="checkbox"/>	渓流沿いにある森林や崩壊のおそれがある箇所は、保護樹帯として保全する 伐採しなければならない場合には、生物多様性保全に配慮した伐採・更新方法で行う ※活動区域内に渓畔林等がない場合、又は活動内容に伐採を含まない場合は、負の影響はないものとして、チェックを入れて構いません。		
	<input type="checkbox"/>	保護樹帯や保残木のある箇所に架線や集材路を設置しなければならない場合には、影響を最小限とするよう位置や設計を工夫する ※活動区域内に保護樹帯等がない場合、又は活動内容に架線や集材路の設置を含まない場合は、負の影響はないものとして、チェックを入れて構いません。		
	<input type="checkbox"/>	環境省や都道府県のレッドリストを確認し、活動区域を含む地域にどのような絶滅危惧種等が生育・生息している可能性があるか情報収集する		
状況別 ご自身の活動内容や活動区域の状況により、これらの項目に該当する取組を行っている場合は、 <u>チェックを入れてください。</u>	<input type="checkbox"/>	長伐期化（通常の伐期よりも長い伐期を設定する）		
	<input type="checkbox"/>	帯状又は群状に伐採し複層林（林齢や樹種の違う高さの異なる複層状態の森林）に誘導する		
	<input type="checkbox"/>	尾根筋の樹木を保全し、保護樹帯を設ける		
	<input type="checkbox"/>	植栽後に自然に侵入した広葉樹等を保全する		
	<input type="checkbox"/>	幹や枝が枯れたり折れたりしている樹木（枯損木）、野生生物のすみかとなるうろのある樹木（樹洞木）などは、作業上の安全性確保の観点などから支障にならない範囲で保残する		
	<input type="checkbox"/>	林道からの距離が長い・樹木の生育が悪いなどの経済合理性の低い箇所を伐採せず保残する		
	<input type="checkbox"/>	刈払い、整地をする場合は、植栽に必要なとなる最小限の実施に留める		
	<input type="checkbox"/>	植栽については、採取地が明らかな種苗を使用する		
	<input type="checkbox"/>	シカ等の野生鳥獣害対策のため、防護柵や単木保護資材を設置する		
	<input type="checkbox"/>	シカ等の野生鳥獣害対策のため、わなや銃器等による捕獲を行う（依頼も含む）		
	<input type="checkbox"/>	在来植生の回復に向けた外来種の駆除を行う		
	<input type="checkbox"/>	植栽樹種については、「生態系被害防止外来種リスト」を踏まえて、生態系等への影響や同種の生物導入による遺伝的攪乱が生じるおそれのあるものは極力選定することを避ける		
	<input type="checkbox"/>	絶滅危惧種等の生育・生息が認められた場合は、専門家に相談して、保全する		
	<input type="checkbox"/>	定期的な伐採・保育、広葉樹の用材利用に向けた森林への誘導など里山資源を継続的に利用する		
	<input type="checkbox"/>	特に沢沿いや湧水地などの水源域においては生分解性チェーンソーオイルを使用する		
	<input type="checkbox"/>	火入れを行う場合は計画を立てて適切に実施する		

<記載のポイント>

「生態系タイプが森林の場合のチェックリスト」は、森林における生物多様性の増進活動に重要となる市町村森林整備計画との整合性の確保や活動時の配慮事項について、申請者の活動内容を明確にするとともに理解の醸成を図るために記載するものです。なお、このチェックリストは「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針（令和6年3月）」に基づき作成されております。

生態系タイプに森林タイプ（天然林、里山林、人工林）が含まれている場合は、必須項目となります。森林タイプが含まれていない場合、本項目は記入せず、「（2）専門家との連携の状況、参考とした文献等」以降に進んでください。

（ア）チェックリストについて

「指針」の中で示された森林管理における生物多様性保全の取組手法例をベースに作成しています。これらの項目を参考に、ご自身の活動内容を検討することで、より生物多様性保全に資する活動の実施につながります。

（イ）共通項目について

森林における活動の場合には必ず行う必要があるものです。全てにチェックが入るよう、ご自身の活動について確認してください。

（ウ）状況別項目について

必ずしも全ての項目を実施する必要はありませんが、ご自身のサイトの状況に応じて、実施可能なものがないか確認し、取り組みを検討してください。

（参考）森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針（林野庁）

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/tayousei/top.html#shishin

（参考）森林の生物多様性を高めるための取組（森林経営計画の別紙様式）

（林野庁）

https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/sinrin_keikaku/attach/pdf/con_6-10.pdf

（2）専門家との連携の状況、参考とした文献等（任意）

<記載例>

（2）専門家との連携の状況、参考とした文献等（任意）

〇〇大学 〇〇教授（専門分野：xx）・・・モニタリング計画の検討や結果を活動内容に反映するにあたってアドバイスをいただく。

<記載のポイント>

活動を行うにあたり、有識者の協力がある場合は、その有識者の所属・役職・氏名・専門分野及び連携の内容をご記入ください。

(参考) 令和6年度までに認定された自然サイトでの旧申請書の引用方法

令和6年度までに自然共生サイトに認定されたサイトにおいて、前回認定時の申請書を添付して引用する場合は、「別紙のとおり(サイトの基礎情報)」と記入してください。

(2) 専門家との連携の状況、参考とした文献等(任意)

別紙のとおり(サイトの基礎情報)

(3) 関連する取組(任意)

<記載例>

(3) 関連する取組(任意)

〇〇計画の認定を受けている(計画名称: 〇〇計画、認定者: 〇〇市役所、取り組み内容: 〇〇〇)
TSUNAG認定(令和〇年〇月認定)

<記載のポイント>

優良緑地確保計画、森林経営計画、環境負荷低減事業活動実施計画、特定環境負荷低減事業活動実施計画の認定など関連する取組があれば記入ください。(計画の名称、認定者・取組主体、取組内容、目標等)。

(4) 支援者について(任意)

<記載例>

(4) 支援者について(任意)

①申請に向けて受けた支援の内容
支援者: 一般財団法人〇〇
支援時期: 令和〇年〇月~令和〇年〇月
支援内容: 活動場所の動植物調査

②認定後に受ける見込みの支援内容
支援者: NPO法人〇〇
支援時期: 令和〇年〇月~令和〇年〇月
支援内容: モニタリングのサポート

<記載のポイント>

活動にあたって支援を受けている団体等があればその名称及び支援内容について記入ください。

特に、別途環境省で運用している「支援証明書」の発行を希望する支援者がいる場合には、申請書に記載いただくことで、支援者が支援証明書発行申請する際の事実確認作業を省力化できます。

(5) 自由記載欄（任意）

その他、重要な事項や記載欄の都合上書ききれなかったことがあれば、記入してください。

IV. 様式 1－2 別紙 1 基本的事項シート

本シートは活動類型が複数ある場合でも、活動類型ごとに整理する必要はありません。

1. 概要

本項目はすべて転記されるため記入は不要です。申請者・共同申請者は「様式 1－2 増進活動実施計画（本体）」より、土地所有者の情報については「別紙 1 土地所有者等記入シート」から転記されます。

2. 確認事項

申請に当たって確認いただく基本的な事項の確認欄です。チェック及び記入をお願いします。

番号 1. 申請者と土地所有者等が異なる場合、土地の所有者等が計画の申請に同意しているか。

<記載例>

申請者と土地の所有者等が異なる場合、土地の所有者等が計画の 1 申請に同意しているか。	<input type="radio"/> 申請者と土地の所有者等が同一である <input checked="" type="radio"/> 申請者と土地の所有者等が異なる 土地の所有者等が計画の申請に同意しているか <input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ 「はい」の場合、「土地の所有者等記入シート」を記入すること。
--	---

<記載のポイント>

「申請者」とは、代表申請者及び共同申請者のことを指します。（番号 6， 7 も同様）

「土地の所有者等」とは、土地の所有者だけではなく、木竹の所有者や土地又は木竹等の使用及び収益を目的とする権利（所有権、地上権、永小作権、賃借権、使用貸借、漁業権、入漁権等）を有する者も含まれます。（番号 6 も同様）

（ア）申請者と土地の所有者等が同一である場合

申請にあたり同意の取得は不要です。「申請者と土地の所有者等が同一である」にチェックを入れてください。

（イ）申請者と土地の所有者等が異なる場合

- すべての土地の所有者等の同意が得られていれば、「はい」にチェックを入れてください。その場合、どのような方法等で同意を取得したか詳細を「別紙 1 土地所有者等記入シート」に記入ください。「別紙 1 土地所有者等記入シート」の記入内容の詳細は、本手引き「第 3 章 VI. 様式 1－2 別紙 1 土地所有者等記入シート」

を参照してください。

- ・なお、複数の土地の所有者等が存在する場合は、当該土地の所有者等の代表者による同意でも構いません。
- ・また、同意の経緯について追加の情報を提供いただくことがあります。
- ・水域に漁業権等の権利が設定されている場合、当該権利を有する者も土地の所有者等に含まれることから、同意を取得する際には、「番号4. 計画に係る実施区域と公物等の管理区域との重複が存在するか。公物等の管理者に申請する同意等を得ているか」も併せて参照してください。
- ・同意について、悪意や重大な過失により、同意を虚偽申請すること等により、不正の手段と認められる場合については、認定取消し等となる場合がありますので、ご注意ください。

番号2. 活動の衡平性に疑念を感じさせる訴訟等の紛争は存在するか。

＜記載例＞

2	活動の衡平性に疑念を感じさせる訴訟等の紛争は存在するか。 (例えば、土地の権利関係や保護と開発の対立など)	● 存在しない ○ 存在する
---	--	----------------

＜記載のポイント＞

ここでいう「活動の衡平性に疑念を感じさせる訴訟等の紛争」としては、例として以下が挙げられます。

- ・土地境界・土地の権利関係に関する紛争
- ・活動に関する不公平な費用負担等に起因する紛争
- ・ステークホルダーの排斥等に伴う紛争
- ・土地利用の在り方（保護と開発の対立など）に関する紛争 など

番号3. 計画に係る実施区域・区域における活動に関連する法令条例を遵守しているか。

<記載例>

<p>3 計画に係る実施区域・区域における活動に関連する法令条例を遵守しているか。</p>	<p>○ はい ○ いいえ</p> <p>【関連法令（把握済の地域指定等を伴う規制法）を選択】</p> <p><input type="checkbox"/> 関係法令はない</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 保護地域（「別紙2 サイト詳細シート①活動内容」で記載したもの）</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 森林法（保安林）</p> <p><input type="checkbox"/> 森林法（地域森林計画対象森林）</p> <p><input type="checkbox"/> エコツーリズム推進法：特定自然観光資源等</p> <p><input type="checkbox"/> 景観法及び景観条例：地方自治体が設定する景観重点地区等</p> <p><input type="checkbox"/> 古都における歴史的風土の保全に関する特別措置法：歴史的風土保存地区、歴史的風土特別保存地区等</p> <p><input type="checkbox"/> 農地法：農地の賃貸借等</p> <p><input type="checkbox"/> 土地改良法：土地改良施設の他目的使用</p> <p><input type="checkbox"/> 市民農園整備促進法：市民農園区域</p> <p><input type="checkbox"/> 首都圏近郊緑地保全法：近郊緑地保全区域等</p> <p><input type="checkbox"/> 林業種苗法：指定採取源</p> <p><input type="checkbox"/> 地すべり等防止法：地すべり防止区域等</p> <p><input type="checkbox"/> 漁港及び漁場の整備等に関する法律及び関連する条例（漁港管理条例等）：漁港区域</p> <p><input type="checkbox"/> 漁業法：漁業権等</p> <p><input type="checkbox"/> 水産資源保護法：保護水面</p> <p><input type="checkbox"/> 生産緑地法：生産緑地等</p> <p><input type="checkbox"/> 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律：歴史的風致維持向上計画の重点区域等</p> <p><input type="checkbox"/> 都市計画法及び関連する条例（施行条例等）：景観地区や風致地区等の地域地区等</p> <p><input type="checkbox"/> 都市緑地法及び関連する条例（地区計画等緑地保全条例等）：緑地保全地域、特別緑地保全地区等</p> <p><input type="checkbox"/> 文化財保護法・条例：史跡名勝、重要文化的景観等 など</p> <p><input type="checkbox"/> その他（上記以外で地域指定や土地等の利用に関する規制法があれば選択）</p>
---	---

<記載のポイント>

関連法令の有無について選択の上、【関連法令がある場合は以下に記入】にある項目から該当するものをすべて選択してください。

刑法や民法等の全国が対象となる法令、実施されている保全・利用等の活動と特段関係を有さない法令については記入不要です。

地域指定や土地等の利用に関する規制法の例としては、各種保護地域制度のほか、以下が挙げられます。

- ・ 森林法：保安林、地域森林計画対象森林
- ・ エコツーリズム推進法：特定自然観光資源等
- ・ 景観法及び景観条例：地方自治体が設定する景観重点地区等
- ・ 古都における歴史的風土の保全に関する特別措置法：歴史的風土保存地区、歴史的風土特別保存地区等
- ・ 農地法：農地の賃貸借等
- ・ 土地改良法：土地改良施設の他目的使用
- ・ 市民農園整備促進法：市民農園区域
- ・ 首都圏近郊緑地保全法：近郊緑地保全区域等
- ・ 林業種苗法：指定採取源
- ・ 地すべり等防止法：地すべり防止区域等
- ・ 漁港及び漁場の整備等に関する法律及び関連する条例（漁港管理条例等）：漁港区域

- ・ 漁業法：漁業権等
- ・ 水産資源保護法：保護水面
- ・ 生産緑地法：生産緑地等
- ・ 地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律：歴史的風致維持向上計画の重点区域等
- ・ 都市計画法及び関連する条例（施行条例等）：景観地区や風致地区等の地域地区等
- ・ 都市緑地法及び関連する条例（地区計画等緑地保全条例等）：緑地保全地域、特別緑地保全地区等
- ・ 文化財保護法・条例：史跡名勝、重要文化的景観等 など

番号4. 計画に係る実施区域と公物等の管理区域との重複が存在するか。公物等の管理者に申請に関する同意等を得ているか。

＜重複がない場合の記載例＞

<p>計画に係る実施区域と公物等の管理区域との重複が存在するか。公物等の管理者に申請に関する同意等を得ているか。</p> <p>公物等の管理区域の対象は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河川区域 ・ 防衛施設区域 ・ 治山事業施行地 ・ 海岸関係区域（海岸保全区域、一般公共海岸区域） ・ 港湾関係区域 ・ 漁港区域 ・ 漁業権区域（定置漁業権、区画漁業権、共有漁業権区域） ・ 保護水面 ・ 都市公園区域 ・ 道路区域 <p>※港湾関係区域とは、港湾区域、港湾隣接地域、臨港地区及び港湾法第2条第6項の規定により国土交通大臣の認定した港湾施設の区域</p>	<p>公物等の管理区域との重複が存在するか</p> <p>● 存在しない：①に回答 ○ 存在する：②と③に回答</p> <p>①公物等の管理者に重複の有無を確認したか</p> <p>● はい ○ いいえ（重複の可能性なし）</p> <p>「はい」の場合、重複がないことを確認した公物等の管理区域の種類、確認内容（確認した時期、管理者、内容など）※複数の公物等の管理区域と重複の場合は、区域ごとに記載すること</p> <p>2026.x.x.xに〇〇県〇〇市〇〇町のAさんにXXXについて、一部重複がないとメールで回答いただく。</p>
---	---

＜重複がある場合の記載例＞

<p>計画に係る実施区域と公物等の管理区域との重複が存在するか。公物等の管理者に申請に関する同意等を得ているか。</p> <p>公物等の管理区域の対象は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 河川区域 ・ 防衛施設区域 ・ 治山事業施行地 ・ 海岸関係区域（海岸保全区域、一般公共海岸区域） ・ 港湾関係区域 ・ 漁港区域 ・ 漁業権区域（定置漁業権、区画漁業権、共有漁業権区域） ・ 保護水面 ・ 都市公園区域 ・ 道路区域 <p>※港湾関係区域とは、港湾区域、港湾隣接地域、臨港地区及び港湾法第2条第6項の規定により国土交通大臣の認定した港湾施設の区域</p>	<p>公物等の管理区域との重複が存在するか</p> <p>○ 存在しない：①に回答 ● 存在する：②と③に回答</p> <p>②公物等の管理区域のうち重複するものについて、管理者に確認の上、申請に関する同意等を得ているか</p> <p>● はい ○ いいえ</p> <p>「はい」の場合、「公物等記入シート」を記入し、必要書類を添付すること。</p> <p>③公物等の管理区域のうち重複しないものについて、管理者に重複の有無を確認したか</p> <p>● はい ○ いいえ（重複の可能性なし）</p> <p>「はい」の場合、公物等の管理区域の種類、管理者、確認した日付、確認の方法を記載すること。※複数の区域について確認した場合は、区域ごとに記載すること</p> <p>2026.x.x.xに〇〇県〇〇市〇〇町のAさんにXXXについて、一部重複があるとメールで回答いただき、自然共生サイトについて同意をいただく。</p>
---	---

<記載のポイント>

以下は地域生物多様性増進活動の実施区域に含まれることが多く見込まれる公物等の管理区域であって、その実施に当たって特に影響が大きいと思料されるものを抽出したものです。これ以外にも、法令により指定等された区域や、何らかの使用収益権が設定されている区域は多数あり、このリストに掲載がないからといって、それらの区域に関する規制や権利を考慮する必要がないということではなく、各法令に反した場合は、当然各法令に基づき対処されることに留意してください。

- ・ 治山事業施行地（森林法第 10 条の 15 第 4 項第 4 号に規定する治山事業の施行地）
- ・ 河川区域（河川法第 6 条第 1 項に規定する河川区域）
- ・ 砂防関係区域（砂防法第 2 条に規定する砂防指定地、地すべり等防止法第 3 条第 1 項に規定する地すべり防止区域、急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律第 3 条第 1 項に規定する急傾斜地崩壊危険区域）
- ・ 治山事業施行地（森林法第 10 条の 15 第 4 項第 4 号に規定する治山事業の施行地）
- ・ 海岸関係区域（海岸法第 3 条第 1 項に規定する海岸保全区域、海岸法第 2 条第 2 項に規定する一般公共海岸区域）
- ・ 港湾関係区域（港湾法第 2 条第 3 項、第 4 項、第 6 項、第 37 条第 1 項に規定する港湾関係区域）
- ・ 漁港区域（漁港及び漁場の整備等に関する法律第 6 条第 1 項から第 4 項までの規定により指定された漁港）
- ・ 漁業権区域（漁業法第 60 条第 1 項に規定する漁業権（定置漁業権、区画漁業権及び共同漁業権）の区域）
- ・ 保護水面（水産資源保護法第 17 条に規定する保護水面）
- ・ 都市公園区域（都市公園法第 2 条の 2 に基づき設置された都市公園の区域）
- ・ 道路区域（道路法第 18 条第 1 項に規定する道路区域）

実施区域が区域と重複しない場合は、「存在しない」にチェックを入れてください。その上で、①の質問項目に回答してください。

存在する場合は、以下の区域に応じて確認・同意をお願いいたします。また、確認・同意を得た場合は取得方法等の詳細を「別紙 1 公物等の管理区域記入シート」に記入ください。その上で②、③の質問項目に回答してください。「別紙 1 公物等の管理区域記入シート」の記入内容の詳細は、本手引き「第 3 章 VII. 様式 1—2 別紙 1 公物等の管理区域記入シート」を参照してください。

また、確認の結果、区域と重複していない場合も、確認した時期、区域の管理者、確認内容を記入ください。

（参考）公物等管理者の確認・同意について

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-Consentconfirm.pdf>

(参考) 様式 3 同意書サンプル (環境省)

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-3ConsentForm-Sample.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

(参考) 農林水産省 (海岸保全区域、一般公共海岸区域、漁港区域、漁業権区域、保護水面)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/tayousei.html

(参考) 国土交通省 (河川区域、砂防指定地、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、都市公園区域、道路区域、海岸保全区域、一般公共海岸区域、港湾関係区域)

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000177.html

(補足) 公物等の管理区域ごとの確認方法等

ア 河川区域

(河川法第 6 条第 1 項に規定する河川区域)

実施区域に一級河川、二級河川が含まれるまたは隣接している場合は、実施区域の最寄りの河川事務所又は都道府県の河川担当課に、申請区域内で河川工事等 (地域生物多様性増進活動の継続に支障が生じるおそれがあるもの) が予定されていないか確認し、予定がある場合は河川管理者と調整し、その範囲を実施区域に含まないようにしてください。

なお、河川の管理区分及び一級河川の確認・問合せ先はウェブサイトに掲載しておりますので参考にしてください。

(参考) 河川の管理区分について (国土交通省)

<https://www.mlit.go.jp/river/riyou/kubun/index.html>

(参考) 確認・問い合わせ先

国管理区間：国土交通省の河川事務所

都道府県管理区間：各都道府県の河川部局

イ 砂防関係区域

(砂防法第 2 条に規定する砂防指定地、地すべり等防止法第 3 条第 1 項に規定する地すべり防止区域、急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律第 3 条第 1 項に規定する急傾斜地崩壊危険区域)

実施区域の近傍に砂防関係区域であることを示す標識がある場合や、実施区域が山

間地、溪流、傾斜地等の場合は、砂防関係区域を管理する都道府県砂防主管課に砂防指定地、急傾斜地崩壊危険区域、地すべり防止区域が含まれているかどうか確認してください。地方公共団体によっては、WEB サイト上で区域を公表している場合もあります（例：長野県 <https://wwwgis.pref.nagano.lg.jp/pref-nagano/PositionSelect?mid=20001>）。

実施区域に含まれる場合、砂防関係区域の管理者の同意を得てください。なお、地すべり防止区域については、都道府県農林担当部局にも確認ください。

（参考）確認・問い合わせ先

都道府県または地方整備局等の砂防主管課

都道府県農林水産担当部局（地すべり防止区域のみ）

<https://www.ml.it.go.jp/common/001286438.pdf>

ウ 治山事業施行地

（森林法第 10 条の 15 第 4 項第 4 号に規定する治山事業の施行地）

実施区域に森林法第 10 条の 15 第 4 項第 4 号に規定する治山事業（地域生物多様性増進活動の継続に支障が生じるおそれがあるもの）の施行地（予定を含む）が含まれている場合は、実施区域が所在する都道府県の治山事業担当部局に詳細な位置を確認し、治山事業担当部局の同意を得てください。実施区域が広域であることなどにより治山事業施行地の確認が困難な場合は、都道府県の治山事業担当部局に確認してください。

（参考）確認・問い合わせ先

都道府県治山事業担当部局

エ 海岸関係区域

（海岸法第 3 条第 1 項に規定する海岸保全区域、海岸法第 2 条第 2 項に規定する一般公共海岸区域）

「海しる」、海岸保全区域台帳、一般公共海岸区域台帳及び都道府県が策定している海岸保全基本計画で海岸保全区域や一般公共海岸区域に重複する可能性がある場合は、事前に海岸管理者に確認を行い、重複する場合は海岸管理者の同意を得てください。

（参考）海しる

<https://www.msil.go.jp/msil/htm/main.html?Lang=0/>

（参考）確認・問い合わせ先

海岸管理者（都道府県、港湾管理者、漁港管理者）

オ 港湾関係区域

（港湾法第2条第3項に規定する港湾区域、港湾法第2条第4項に規定する臨港地区、港湾法第2条第6項の規定により国土交通大臣の認定した港湾施設の区域及び港湾法第37条第1項に規定する港湾隣接地域）

① 陸域

「海しる」又は港湾計画図で実施区域が所在する普通地方公共団体（都道府県を除く）の区域の地先に港湾区域があるか確認のうえ、港湾区域からおおむね2km以内における申請である場合は、当該港湾区域を管理する港湾管理者に対し、実施区域に港湾隣接地域、臨港地区又は港湾法第2条第6項の規定により国土交通大臣の認定した港湾施設の区域が含まれるかどうかを確認ください。含まれる場合、港湾管理者の同意を得てください。

なお、港湾区域の有無が判断できない場合は、海岸線や運河等の水域からおおむね2km以内であると確認対象の区域が含まれる可能性がありますので、実施区域が所在する都道府県等の港湾担当課に確認を行ってください。

② 水域

「海しる」又は港湾計画図で港湾区域が含まれるかどうか確認ください。含まれる場合、港湾管理者の同意を得てください。なお、港湾法第2条第8項の開発保全航路については実施区域に含まないようにしてください。

（補足）

陸域に設定されるもの：港湾隣接地域、臨港地区、国交大臣認定の港湾施設
水域に設定されるもの：港湾区域、開発保全航路

（補足）「海しる」で確認できない港湾区域

「海しる」では湖沼（琵琶湖、霞ヶ浦等）や河川（常陸利根川及び淀川）に位置する港湾の港湾区域の確認ができないため、該当の港湾区域の確認にあたっては、港湾管理者へ確認を行ってください。

（参考）海しる

<https://www.msil.go.jp/msil/htm/main.html?Lang=0/>

（参考）確認・問い合わせ先

港湾管理者（港務局、都道府県又は市町村の港湾担当課、一部事務組合）

（参考）港湾管理者一覧表

https://www.mlit.go.jp/statistics/details/port_list.html

カ 漁港区域

（漁港及び漁場の整備等に関する法律第6条第1項から第4項までの規定により指定する漁港区域）

「海しる」で漁港区域に重複する可能性がある場合は、事前に漁港一覧から漁港管理者に確認を行い、重複する場合は、漁港管理者から同意書（様式3（記載例：[tayousei-2.docx](#)））を得て、申請書に添付してください。

なお、「海しる」は、漁港区域のうち陸域、琵琶湖及び霞ヶ浦等について確認ができないため、漁港一覧から重複する可能性がある漁港管理者に確認を行ってください。

（参考）海しる

<https://www.msil.go.jp/msil/htm/main.html?Lang=0/>

（参考）漁港一覧（水産庁）

https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/g_zyoho_bako/gyoko_itiran/sub81.html

（参考）確認・問い合わせ先

都道府県又は市町村の漁港担当課

キ 漁業権区域

（漁業法第60条第1項に規定する漁業権（定置漁業権、区画漁業権及び共同漁業権）の区域）

漁業法に基づく共同漁業権、区画漁業権及び定置漁業権区域が含まれるかどうか確認ください。含まれる場合、漁業権者（漁業権の免許を受けている者。不明な場合は都道府県に確認。）から同意書（様式3（記載例：[tayousei-2.docx](#)））を得て、申請書に添付してください。

また、書面等により当該漁業権を免許している都道府県等の確認を得て、申請書に添付してください（確認書の様式：[tayousei-4.docx](#)）。実施区域に漁業権区域が含まれるかどうか不明な場合は、都道府県水産主務課にご確認ください。

（参考）確認・問い合わせ先

都道府県漁業権担当課

ク 保護水面

（水産資源保護法第17条に規定する保護水面）

水産資源保護法に基づく保護水面が含まれるかご確認ください。含まれる場合、都道府県から同意書（様式3（記載例：[tayousei-5.docx](#)））を得て申請書に添付してください。実施区域に保護水面が含まれるかどうか不明な場合は、都道府県水産主務課

にご確認ください。

(参考) 確認・問い合わせ先
都道府県保護水面担当課

ケ 都市公園区域

(都市公園法第2条の2に基づき設置された都市公園の区域)

実施区域に都市公園法第2条の2に基づき設置された都市公園(国営公園、都道府県の都市公園、市町村の都市公園)の区域が含まれるかご確認ください。都市公園の区域は各地方公共団体のウェブサイト等でご確認ください。インターネットで「地方公共団体名」+「都市公園」と検索いただければ当該地方公共団体の都市公園関係のウェブサイトが確認できますので、当該ウェブサイトで一覧を確認するか、担当部署へお問い合わせください。なお、地方公共団体によってはウェブサイトで都市公園の一覧を紹介しています(例: 東京都 <https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/park/kouenannai/ichiran>)。都市公園の区域に含まれる場合、当該都市公園の管理者(都道府県や市町村など)に同意を得てください。

(参考) 確認・問い合わせ先
当該都市公園の公園管理者(都市公園担当部署)

コ 道路区域

(道路法第18条第1項に規定する道路の区域)

実施区域に道路法第18条第1項に規定する道路(一般国道、都道府県道、市町村道(ただし、自動車専用道路を除く))の区域が含まれるかご確認ください。含まれる場合、当該道路区域の道路管理者(国や都道府県、市町村など)に同意を得てください。

(参考) 確認・問い合わせ先
都道府県や市町村などの道路担当部署

番号5. 計画に係る実施区域内において、現行・将来の整備計画等はないか。

<記載例>

5	計画に係る実施区域内において、現行・将来の整備計画等はないか。	<input checked="" type="radio"/> ない <input type="radio"/> ある
---	---------------------------------	--

＜記載のポイント＞

「整備計画等」とは、区域の活動目的以外の目的のために行われる一連の土地の形状の変更並びに工作物の新築及び増改築をいうものとし、通常の保全・利用等の活動の一環（例えば維持管理行為）として実施されるものは整備計画等には含みません。

現時点において、実施区域内において、現行・将来の整備計画等がない場合は、「ない」にチェックを入れてください。

整備計画等がある場合には、以下について該当する欄内に記入し、詳細が分かる資料があれば本手引き「第4章 V. 添付5 整備計画等資料」を参照して提出してください。整備計画等が複数ある場合には、全ての整備計画等について記入してください。

- ・整備計画等の概要（事業名、事業主体、予定時期、整備場所など）
- ・生物多様性増進活動への影響や整備計画等との調整・対応状況

番号6. 申請者及び土地の所有者等が複数の者から構成される場合、関係者の意思疎通が図られる定期的な機会が設定されているか。

＜記載例＞

<p>申請者と土地の所有者等が同一でない場合、関係者の意思疎通が図られる定期的な機会が設定されているか。</p> <p>6</p> <p><input type="radio"/> 該当しない（申請者と土地の所有者等は同一である）</p> <p>（右の質問の回答不要）</p>	<p><input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ</p> <p>「はい」の場合、その内容</p> <p>（土地所有者の〇〇氏、××氏とは、年に1回対面で打ち合わせを行い、情報共有・意見交換を行っている。）</p>
--	---

＜記載のポイント＞

「申請者」とは、「代表申請者」及び「共同申請者」のことを指します。

「土地の所有者等」とは、土地の所有者だけではなく、木竹の所有者や土地又は木竹等の使用及び収益を目的とする権利（所有権、地上権、永小作権、賃借権、使用貸借、漁業権、入漁権等）を有する者も含まれます。

申請者と土地の所有者等が同一の場合には、「該当しない」にチェックを入れてください。申請者及び土地の所有者等が複数の者から構成される場合、「意思疎通が図られる定期的な機会」は、年に1度以上設定してください。「意思疎通が図られる定期的な機会」が設定されている場合は、「はい」にチェックをいれていただき、具体的な内容及び意思疎通の頻度を該当する欄内に記入し、詳細が分かる資料があれば本手引き「第4章 VI. 添付6 協議会・意思疎通方法」を参照して提出してください。

なお、意思疎通の方法は問いませんが、例として以下のものが挙げられます。

- ・協議会において意思疎通を図っている。
- ・申請者及び土地の所有者等の間で、打合せの場を設けている。
- ・WEB上に申請者及び土地所有者等のみに公開されている専用サイトを設けており、各種調整やコミュニケーションを行っている。
- ・申請者及び土地所有者等が参加するメーリングリストを作成し、保全・利用等の活動

の状況についての情報共有等を行っている。

番号 7. 申請者が法人・団体の場合、法人や団体が解散する予定がなく活動の責任者としての立場の期間が継続するか。

＜記載例＞

7	申請者が法人・団体の場合、法人や団体が解散する予定がなく活動の責任者としての立場の期間が継続するか。	<input checked="" type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
	<input type="radio"/> 該当しない（活動責任者は個人である） <small>（右の質問の回答不要）</small>	

＜記載のポイント＞

申請者とは、代表申請者及び共同申請者のことを指します。

申請者が個人の場合は、「該当しない」にチェックを入れてください。

申請者が法人・団体の場合は、現時点において、解散の予定はなく、現在の実施体制が継続する見込みであれば、「はい」にチェックを入れてください。

なお、土地の所有や貸借等に期限が存在する場合においては、今後5年程度の継続が見込まれることを目安に、該当する欄内に期限を記入し、その内容が分かる資料があれば本手引き「第4章 VII. 添付7 所有・賃貸関係（期限がある場合）」を参照して提出してください。

V. 様式1-2 別紙1 申請者等記入シート

申請者が団体の場合は「申請者の情報（申請者が団体の場合）」の欄に情報を記入ください。

申請者が個人の場合は、「申請者の情報（申請者が個人の場合）」の欄に情報を記入ください。

申請者1の欄には代表申請者を記入し、申請者2以降に共同申請者を記入してください。

VI. 様式 1-2 別紙 1 土地所有者等記入シート

<記載例>

(留意事項)

- ・土地の所有者等の同意については、同意の取得の日及び取得の方法について、以下の欄に土地の所有者等ごとに記入してください。また、書面、メール、会議の議事録等の記録を添付してください。書面等の添付が困難な場合は、同意方法の詳細（説明内容、確認方法、団体の場合は担当者等）を「同意の方法」の欄に記載してください。
- ・水域の場合は、「同意の方法」の欄の冒頭に「水域」と記載ください。

(確認事項 1) 実施区域に国有林が含まれますか。 ☒ はい ☐ いいえ

国有林を含む場合には、森林管理局・森林管理署等の同意書の添付を必須としています。以下も記入ください。

国有林の所在地	〇〇県〇〇市	当該国有林の管理者	〇〇森林管理署	同意書の日付	2026.3.31
---------	--------	-----------	---------	--------	-----------

(確認事項 2) 土地所有者等は複数いますか ☒ はい ☐ いいえ

1	土地の所有者等の情報	氏名/団体名	フリガナ マルマル マルマル	同意を得た日
			〇〇 〇〇	2026.2.28
		郵便番号・住所	〒 123-1234 〇〇県〇〇市〇〇	同意の方法
		連絡先 (Tel, Mail)	Tel: 123-1234-1234 Mail: 〇〇@sample.jp	同意書 (添付資料〇〇)
2	土地の所有者等の情報	氏名/団体名	フリガナ バツバツ バツバツ	同意を得た日
			×× ××	2026.1.31
		郵便番号・住所	〒 567-5678 〇〇県〇〇市××	同意の方法
		連絡先 (Tel, Mail)	Tel: 567-5678-5678 Mail: ××@sample.jp	会議議事録 (添付資料××)

<記載のポイント>

計画の実施区域の土地の所有者等^(※)を記入ください。土地の所有者等の同意については、同意の取得の日及び取得の方法について、土地の所有者等ごとに記入してください。また、同意取得の証明書類（書面、メール、会議の議事録等の記録）をその他添付資料として添付してください。書面等の添付が困難な場合は、同意方法の詳細（担当者、説明内容、確認方法等）を「同意の方法」の欄に記入ください。

※「土地の所有者等」とは、土地の所有者だけではなく、木竹の所有者や土地又は木竹等の使用及び収益を目的とする権利（所有権、地上権、永小作権、賃借権、使用貸借、漁業権、入漁権等）を有する者も含まれます。

ア 確認事項 1

実施区域内に国有林が含まれているか選択してください。

国有林を含む場合には、森林管理局・森林管理署等の同意書の添付が必須になっております。まずは当該区域の森林管理局・森林管理署にご相談ください。

同意書を取得の上、国有林の所在地、管理者、同意書の日付を記入ください。

イ 確認事項 2

土地所有者等が複数いるか選択してください。

ウ 土地所有者等の情報

海域を含めて水域の場合は、「同意の方法」の欄の冒頭に「水域」と記入ください。ただし、漁業権や入漁権を有する者から同意取得する必要がありますので、該当する者がいる場合には記入するとともに、同意方法について記入してください。

森林の場合は、土地の所有者のほか、木竹の所有者又は使用及び収益を目的とする権利を有する者（例：分収造林を実施している森林整備センター（水源林造成事業）や官行造林地関係者）との同意についても、必要に応じて記入するとともに、同意方法について記入してください。

VII. 様式 1—2 別紙 1 公物等の管理区域記入シート

<記載例>

増進活動実施区域との重複が有る公物等の管理区域			
1	名称・種別	第3種○○漁港	
	所在	○○県○○市	
	管理者	○○県	
	担当	○○県漁港漁場整備課	
	連絡先 (Tel, Mail)	Tel: xxx-xxxx-xxxx	Mail: ○○@sample.jp
	確認又は同意の日	2025.3.31	
	確認又は同意の方法	書面（添付書類○○）	
	2	名称・種別	海岸保全区域
所在		○○市○○	
管理者		○○県○○建設事務所	
担当		○○課	
連絡先 (Tel, Mail)		Tel: xxx-xxxx-xxxx	Mail: ○○@sample.jp
確認又は同意の日		2025.2.7	
確認又は同意の方法		メール（添付書類××）	
3		名称・種別	第一種共同漁業権
	所在	○○市○○及び○○浜地先	
	管理者	○○県水産課	
	担当	○○県水産課	
	連絡先 (Tel, Mail)	Tel: xxx-xxxx-xxxx	Mail: ○○@sample.jp
	確認又は同意の日	2025.3.28	
	確認又は同意の方法	書面（添付書類△△）	

<記載のポイント>

実施区域と重複がある公物等の管理区域毎に、名称・種別、所在、管理者、連絡先、確認又は同意を得た日及びその方法を記入ください。

事務局（ERCA）による審査の際に、管理者の方に確認する場合がありますので、管理者の連絡先は必ず記入ください。

確認又は同意については、同意書（様式3など）、書面、メール、会議の議事録等の協議記録を本手引き「第3章 IV. 様式 1—2 別紙 1 基本的事項シート 2. 確認事項 番号4. 計画に係る実施区域と公物等の管理区域との重複が存在するか。公物等の

管理者に申請に関する同意等を得ているか。」及び本手引き「第4章 Ⅲ. 添付3 公物等の管理区域に関する記録」を参照して添付ください。

書面等の添付が困難な場合は、確認又は同意方法の詳細（担当者、説明内容、確認方法等）を「確認又は同意の方法」の欄に記入ください。

農林水産省、国土交通省が管轄する公物の同意書については、以下ホームページにサンプルが掲載されておりますので併せてご確認ください。

（参考）農林水産省（海岸保全区域、一般公共海岸区域、漁港区域、漁業権区域、保護水面）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/tayousei.html

（参考）国土交通省（河川区域、砂防指定地、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、都市公園区域、道路区域、海岸保全区域、一般公共海岸区域、港湾関係区域）

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000177.html

VIII. 様式1-2 別紙2 サイト詳細シート①活動内容

複数の活動類型がある場合、活動類型ごとに当シートを複写して作成してください。

また、シート冒頭の活動類型を選択の上、記入してください。

1. 実施区域

（1）実施区域の状況

<記載例>

（1）実施区域の状況	本サイトは、〇〇県〇〇市の中山間地域（標高300m～約200m）に位置し、里山林、水田（稲田）といった里地里山の環境が形成されている。 稲田では化学肥料や農薬の利用を抑えた環境保全型農業を行い、〇〇サンショウワオの生育も確認されている。 〇〇地域の代表的な里地里山の自然景観を有することから「〇〇100選」に選定されており、地域団体と協力して定期的なエコツアーの開催や、市内の小学校の社会科見学の間としても利用されている。
------------	---

<記載のポイント>

実施区域の状況を記入してください。以下の情報が含まれていると、区域のイメージが掴みやすくなります。

- ・サイトの属性（社有林、工場緑地、森林施業地、ビオトープなど）
- ・サイトの自然環境の様子（植生、ハビタットなど）
- ・サイトで確認されている生物
- ・維持管理や利用に関する情報
- ・将来のビジョン など

（参考）令和6年度までに認定された自然サイトでの旧申請書または認定を受けた森林経営計画の引用方法

令和6年度までに自然共生サイトに認定されたサイトにおいて、前回認定時の申請書

を添付して引用する場合は、「別紙のとおり（サイトの生物多様性の様子）」、認定を受けた森林経営計画を添付して引用する場合は、「森林経営計画書（森林の経営に関する長期の方針別紙）に記載のとおり」と記入してください。

（２）生物多様性の状況

＜記載例＞

（２）生物多様性の状況	<p>①里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場としての価値。</p> <p>②希少な動植物が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場としての価値を有する。</p> <p>里山的環境に典型的な生態系が維持され、田、斜面林などの多様な環境により、希少種を含めてチョウ、トンボ、野鳥、草本類などの生息生育地となっている。</p> <p>詳細は「別紙③④サイトの状況」のとおり。</p>
-------------	---

＜記載のポイント＞

実施区域の生物多様性の価値とその価値ごとの概要を記入ください。

（３）保護地域との重複

＜記載例＞

（３）保護地域との重複	<p>● あり ○ なし</p> <p>保護地域名（○○鳥獣保護地域）</p>
-------------	--

＜記載のポイント＞

保護地域との重複の有無についてチェックを入れてください。重複がある場合は、重複している保護地域の名称を記入ください。保護地域の詳細については「地域生物多様性増進活動の手引き（概要編）」－「第２章 Ｉ．活動の区域 １（２）保護地域の指定の有無」を参照ください。

（４）土地利用の変遷

＜記載例＞

（４）土地利用の変遷	<p>本サイトの大半を占めるクスギ・コナラの二次林は、心留林としての利用が1960年代頃から減ないし、絶滅が進んだ状態にある。ただし、一部で祭事用の薪採取が今も続いている。</p> <p>本サイト中央部の水田（棚田）では、2000年代に耕作放棄が進んだが、2010年代後半からNPO団体が生産活動を再開・維持している。</p>
------------	---

＜記載のポイント＞

土地利用の変遷について記入してください。

特に造成した場所の場合は、今の活動を開始する前に実施区域がどのような場であったかご記入ください。

なお、例えば、自然状態が続いてきた場や、長年同様の保全・利用等の活動が行われてきた場所であれば、その旨をご記入ください。

例１：従来から森林地帯の一部として保全・利用されてきた。

例２：従来から里地里山の一部として営農に利用されてきた。

（５）周辺の環境

＜記載例＞

（５）周辺の環境	本サイト周辺には、同じくクスギ・コナラの二次林や小規模な水田（棚田）からなる環境が広がっているが、近年は、二次林の管理減退や水田の耕作放棄が著しく進んでいる。
----------	---

＜記載のポイント＞

実施区域の周辺の環境がどのような状況であるかについてご記入ください。

実施区域との環境の類似性や相違点（実施区域と同様の里山林が広がっている、周辺は工業地帯であり実施区域は希少な緑である等）、自然環境の連続性・連結性の状況等と関係づけて記入いただくと分かりやすいです。

また、実施区域の面積が小さい場合は、隣接する土地の所有や維持管理の状況等も有用な情報になります。

例１：実施区域と同様の里山林が広がっている。

例２：周辺は工業地帯であり実施区域は希少な緑である。

（６）実施区域の課題

＜記載例＞

（５）周辺の環境	本サイト周辺には、同じくクスギ・コナラの二次林や小規模な水田（棚田）からなる環境が広がっているが、近年は、二次林の管理減退や水田の耕作放棄が著しく進んでいる。
----------	---

＜記載のポイント＞

実施区域の生物多様性の維持、回復、創出に関する課題について記入ください。

例としては、以下が挙げられます。

- ・密猟や乱獲、盗掘・盗採等の行為
- ・侵略的外来生物の侵入、在来生物に対する捕食圧、在来生物との競合、生息環境の改変
- ・有害鳥獣による在来生物の食害、生息環境の改変
- ・病虫害の侵入
- ・有害化学物質の流入等による水質または土壌等の汚染 など

2. 活動内容

エリアや生態系タイプが複数ある場合、どこに関する内容かわかるように整理して記載してください。

（１）目標

ア 実施区域の現況及び課題を踏まえた大目標（状態目標）

＜記載例＞

<p>サイトの目指すべき自然環境の姿（状態目標）</p>	<p>〇〇サンショウウオをシンボルとした、多様な在来動植物が生育生息する里地里山の生態系を維持する。 自然と人間が共存した証が残る里地里山の文化的資源（古民家を含む里山景観）を維持する。 そうした資源を環境教育・観光に活用していく。</p>
------------------------------	--

＜記載のポイント＞

実施区域の現況及び課題等を踏まえて、サイトの目指すべき自然環境の姿（目指すべき状態目標）を記入してください。

（参考）令和6年度までに認定された自然サイトでの旧申請書または認定を受けた森林経営計画の引用方法

令和6年度までに自然共生サイトに認定されたサイトにおいて、前回認定時の申請書を添付して引用する場合は、「別紙のとおり（サイトの生物多様性の様子）」、認定を受けた森林経営計画を添付して引用する場合は、「森林経営計画書（森林の経営に関する長期の方針別紙）に記載のとおり」と記入ください。

<p>サイトの目指すべき自然環境の姿（状態目標）</p>	<p>別紙のとおり（サイトの基礎情報、サイトの概要）。以下同じ。 森林経営計画書（森林の経営に関する長期の方針）に記載のとおり。以下同じ。</p>
------------------------------	---

イ 個別目標（増進を図る生物多様性の価値ごとの具体的な目標）

＜記載例＞

個別目標（増進を図る生物多様性の価値ごとの具体的な目標）	① 公的機関によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場としての価値
	② 原生的な自然生態系が存する場としての価値
	③ 里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場としての価値
	【森林エリア】 外来種の防除。地面に太陽光が当たりやすい環境を維持する。 【水田エリア】 外来種の防除。減農薬により多様な生物の生育生息環境を保全。
	④ 生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場としての価値
	⑤ 伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の提供の場としての価値
	⑥ 希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場としての価値
	現在、生息生育が確認されている〇〇サンショウウオを含めた希少な動植物の生育生息環境を保全する。 【森林エリア】 鳥類：フクロウ、植物：キンラン、ギンラン、【水田エリア】 両生類：〇〇サンショウウオ など
	⑦ 分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息している場又は生息生育の可能性が高い場としての価値
	⑧ 越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場としての価値
	⑨ 既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場としての価値

＜記載のポイント＞

増進を図る生物多様性の価値毎に個別目標を項目立てて記入ください。複数の生態系タイプがある場合は、記載がどの生態系タイプに該当したものを整理して記入してください。

なお、記入内容に共通点が多い場合には、生物多様性の価値の類型ごとではなくまとめて記入して差し支えありません。

① 生物多様性を維持する活動の場合

生物多様性を維持する活動の場合は、申請時点で実施区域が有している生物多様性の価値を維持し続けることが目標となります。さらに、生物多様性の価値をより向上させていくことも目標として適当です。

② 生物多様性を回復又は創出する活動の場合

- ・ 生物多様性を回復又は創出する活動の場合は、生物多様性の価値のいずれかを回復・創出することが目標となります。
- ・ 維持タイプと比べて、目標設定や目標達成に向けたタイムスケジュールが重要となるため、計画作成に当たってはこれらについて言及するようにしてください。なお、記入欄に書ききれない場合には、添付資料などを付けて引用してください。回復・創出タイプの目標設定に当たっては、地域の社会的条件や自然環境の現況、土地利用の変遷等に応じて柔軟に定めるようにしてください。自然の復元力やサイクルを踏まえた持続可能性を考慮して、活動期間よりも長期又は短期の目標を設定す

ることも有効です。

- ・具体的には、活動の実施区域の土地利用の変遷、周囲の良好な自然環境の状況等を参照した上で、「生物多様性が豊かであった時期の状況を目標とする」「地域の特徴的な種や生態系の状態に着目して目標を設定する」などの方法が考えられます。
- ・「生物多様性が豊かであった時期の状況を目標とする」場合には、当時の状況を把握できる資料（調査結果、文献、写真等）を整理するほかに、当時の状況を知る複数人へのヒアリング等を通じて明らかにすることも効果的です。また、荒廃農地を農地として再生するか、草地として粗放的に管理するかなど、目標とする生態系が複数考えられる場合には、活動の実施体制、地域の合意形成の状況、関連する地域の計画等を踏まえた上で、設定することが重要です。

(2) 活動内容及び実施時期

<記載例>

(2) 活動内容及び実施時期

活動内容	実施時期	実施場所	生態系タイプの区分 (シート「様式1-2増進活動実施計画(本体)」 1. 概要(5)実施区域で選択した区分のうち 該当するものを記載)
草丈は昆虫の生息可能な高さ10cm以上を残しながら刈る。特に人が利用しない場所については、刈り高が20～30cm程度になるよう高刈りを行う。 保護対象の植物の範囲を線で囲い、維持管理を行う。 詳細は別添「活動計画書」の通り。	通年(年〇回程度)	草地エリア	二次草原
科学農薬及び化学肥料を使用せず、水田への環境負荷を減少させる。 水田内に江、深い溝、ビオトープを設置し、中干期間中でも溺水できるようにする。 詳細は別添「活動計画書」の通り。	通年	水田エリア	水田
里山資源の継続的利用を維持するため、定期的な伐採・保育を行うとともに、林床の腐物を保護し、天然更新を図るためシカ被害を防止する。 小面積皆伐により若い林が混じるモザイク状の里山林をつくることで、ナラ枯れ被害を受けにくくし、明るい環境を好む生物相を保全する。 資源利用の実態や樹種構成により広葉樹用材林への誘導を図る。 詳細は別添「活動計画書」の通り。	通年	森林エリア	里山林
添付ファイルがある場合 ファイル名:	添付資料: 〇〇、〇〇、〇〇		

<記載のポイント>

活動ごとにどのような活動を、いつ(どれぐらいの頻度で)、どこで行うかを具体的に記入ください。

なお、活動内容を記載するにあたっては、以下のリンクも参考に検討してください。

■別紙1 効果が期待できる活動手法

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-append01-ActivityMethodsEffect.pdf>

■生態系タイプごとの活動手法リスト

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-append01-Active-list.pdf>

(参考) 令和6年度までに認定された自然サイトでの旧申請書または認定を受けた森林経営計画の引用方法

令和6年度までに自然共生サイトに認定されたサイトにおいて、前回認定時の申請書を添付して引用する場合は、「別紙のとおり(サイトの活動計画、モニタリング計画、サイトの概要)」、認定を受けた森林経営計画を添付して引用する場合は、「森林経営計画書(森林の経営に関する長期の方針別紙)に記載のとおり」と記入してください。

活動内容	実施時期	実施場所	生態系タイプの区分 (シート「様式1-2増進活動実施計画(本体)」 1. 概要(5)実施区域で選択した区分のうち 該当するものを記載)
別紙のとおり(サイトの基礎情報、モニタリング計画、サイトの概要)。 森林経営計画書(森林の経営に関する長期の方針)に記載の通り。	—	—	—

(3) モニタリング計画

<記載例>

(3) モニタリング計画 ※どのエリアに関する記載がわかるように記載してください。

①モニタリング対象:	鳥類、両生類、昆虫類、植物
②場所:	①二次草原ゾーン: 草原内に設定したルート沿い、②水田ゾーン: 5地点、③森林ゾーン: 林内に設定したルート沿い
③手法:	①二次草原ゾーン: 鳥類は目視、鳴き声。昆虫・植物は直接観察または採取、②水田ゾーン: 昆虫類・両生類を直接観察または採取、③森林ゾーン: 鳥類は目視、鳴き声。昆虫・植物は直接観察または採取
④実施時期及び頻度:	基本的には2年に1度の頻度で実施。モニタリング実施年の2月、4月、5月、8月、11月に実施
⑤実施体制:	NPO法人○○の職員が中心となって実施。市民参加型モニタリングも実施。主導や分析、計画立案の助言は有識者(○○大学○○教授)に依頼。
⑥添付ファイルがある場合 ファイル名:	添付資料: ○○、○○、○○

<記載のポイント>

本欄に以下の項目について記入ください。添付4として提出いただいた場合は、本欄は簡潔に記載の上、「詳細は添付4の通り」などと引用することも可能です。

- ・モニタリング対象
- ・モニタリング場所
- ・モニタリング手法
- ・モニタリングの実施時期及び頻度
- ・モニタリングの実施体制

なお、モニタリング計画を記載するにあたっては、以下のリンクを参考に検討してください。

■別紙1 効果が期待できる活動手法

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-append01-ActivityMethodsEffect.pdf>

■生態系タイプごとの活動手法リスト

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-append01-Active-list.pdf>

■モニタリング手法リスト

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-append01-monitorling-list.pdf>

(参考) 令和6年度までに認定された自然サイトでの旧申請書または認定を受けた森林経営計画の引用方法

令和6年度までに自然共生サイトに認定されたサイトにおいて、前回認定時の申請書を添付して引用する場合は、「別紙のとおり（サイトの活動計画、モニタリング計画）」、森林経営計画を引用している場合は、「森林経営計画書（森林の経営に関する長期の方針別紙）に記載のとおり」と記入ください。

<記載例>

(3) モニタリング計画 ※どのエリアに関する記載がわかるように記載してください。

①モニタリング対象:	別紙のとおり（サイトの基礎情報、サイトの概要）。以下同じ。 森林経営計画書（森林の経営に関する長期の方針）に記載の通り。以下同じ。
②場所:	—
③手法:	—
④実施時期及び頻度:	—
⑤実施体制:	—
⑥添付ファイルがある場合 ファイル名:	—

IX. 様式 1-2 別紙 2 サイト詳細シート②サイトの状況等

複数の活動類型がある場合、活動類型ごとに当シートを複製して作成してください。また、活動類型を選択の上、記入してください。

1. サイトの基礎情報

＜記載例＞

サイト名称	日本語名	自然共生の里		
	英語名	Village of harmony with nature		
サイト住所	東京都千代田区霞が関1234-5678			
サイト面積	100.01	ha	(うち、海域部分)	保護地域との重複がある場合 (把握している場合記入)
	面積の換算方法:	<input checked="" type="radio"/> GISによる面積計算	<input type="radio"/> その他 ()	重複部分の面積 ha
活動類型	<input checked="" type="radio"/> 生物多様性の維持 <input type="radio"/> 生物多様性の回復 <input type="radio"/> 生物多様性の創出			
生態系タイプ	森林	草原	農地	都市
	<input type="checkbox"/> 天然林	<input type="checkbox"/> 自然草原	<input checked="" type="checkbox"/> 水田	<input checked="" type="checkbox"/> 創出緑地
	<input checked="" type="checkbox"/> 里山林	<input checked="" type="checkbox"/> 二次草原・草地	<input type="checkbox"/> 畑・果樹園・牧草地	
	<input checked="" type="checkbox"/> 人工林			
				陸水域 沿岸域 <input type="checkbox"/> 河川・湖沼 <input type="checkbox"/> サンゴ（礁） <input type="checkbox"/> 高層湿原・中間湿原・湧水湿地 <input type="checkbox"/> 藻場・岩礁 <input type="checkbox"/> 低層湿原・湿地 <input type="checkbox"/> 干潟・マングローブ林 <input type="checkbox"/> 砂浜

サイトの基礎情報（生物多様性の価値）

活動により増進を図る生物多様性の価値	<input checked="" type="checkbox"/> ① 公的機関によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場としての価値
	<input type="checkbox"/> ② 原始的な自然生態系が存する場としての価値
	<input checked="" type="checkbox"/> ③ 里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場としての価値
	<input type="checkbox"/> ④ 生態系サービス提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場としての価値
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤ 伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場としての価値
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥ 希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場としての価値
	<input type="checkbox"/> ⑦ 分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性がある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場としての価値
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑧ 越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場としての価値
	<input type="checkbox"/> ⑨ 既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場としての価値

＜記載のポイント＞

（1）サイト名称

ア 日本語の名称

「様式 1-2 増進活動実施計画（本体）」で記入したサイト名称が転記されますが、複数類型をまとめて申請する場合には、該当類型のサイト名を上書きしてください。

イ 英語の名称

既存の英語名称があれば、本項にご記入ください。既存の英語の名称がない場合は新たに設定して、記入してください。

英語の名称は、認定後に、保護地域との重複を除いた区域を OECM 国際データベースへ登録する際や、英語版の公表資料の作成等で必要になります。

(2) サイト面積

ア サイト面積

「様式 1-2 増進活動実施計画（本体）」で記入した面積が転記されますが、複数類型をまとめて申請する場合には、該当類型の面積を上書きしてください。また海域を含む場合には、海域部分の面積を記入してください。

サイトの面積（ha）は小数点 3 桁まで記入可能です。少なくとも有効数字が 2 桁以上となるように記入してください（例：85ha、8.5ha、0.85ha、0.085ha）。

GIS データ上の面積と実測等に基づく面積が異なる場合は、GIS データ上の面積をご記入ください。GIS データ上の面積と実測等に基づく面積が完全に一致する必要はありませんが、GIS データの面積と大きな乖離が生じないようにご注意ください。

なお、OECM 国際データベースへの登録は GIS データによるため、GIS データがない場合は、事務局（ERCA）で GIS データを作成し登録いたします。その際、申請書に記入いただいた面積とは異なる GIS データ上の面積が公表等される可能性があります点についてご了承ください。

イ 保護地域との重複について

実施区域が既存の保護地域と重複し、重複分を把握している場合は、その重複分の面積をご記入ください。

保護地域の詳細は「地域生物多様性増進活動の手引き（概要編）」－「第 2 章 I. 活動の区域 1（2）保護地域の指定の有無」を参照してください。

ウ 面積の算出方法

GIS データを利用している場合は、「GIS による面積計算」を選択してください。GIS データを利用していない場合は、「その他」を選択の上、算出方法を記入ください。

(3) 活動類型、生態系タイプ、該当する生物多様性の価値

「様式 1-2 増進活動実施計画（本体）」において選択した活動類型が一つの場合、活動類型、生態系タイプ、生物多様性の価値が転記されますが、複数類型をまとめて申請する場合には、該当類型の活動類型、生態系タイプ、生物多様性の価値を上書きしてください。

1. サイトの基礎情報（区域図）

<記載例>



<記載のポイント>

実施区域の範囲及び付近の状況を明らかにした図面（区域図）を示してください。申請エリアについて、赤い太線等で囲んでください。また、複数の活動類型で申請する場合は、それぞれの活動類型の区域が分かるように示してください。

（１）GIS データを活用する場合（原則）

GIS データを元に作成した図面を、区域図として掲載してください。GIS データは添付 1 として提出ください。

（参考）申請区域の GIS ポリゴンデータ作成マニュアル

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/30by30site-GIS-application-form7f.pdf>

（参考）申請区域 GIS ポリゴンデータの作成（ERCA、YouTube 動画）

<https://youtu.be/T-C78A4MDR8?si=txg8CZczoRiUmVYK>

（２）GIS データの提出が難しい場合

GIS データの提出が難しい場合には、他の方法で作成した区域図を掲載してください。

この場合、位置図と面積計算図を添付 1 として提出ください。縮尺は区域の範囲及びその付近の状況が明確に分かるものを用いてください。

1. サイトの基礎情報（全体写真）

＜記載例＞

1. サイトの基礎情報（全体写真）（必須）	
注：写真は不鮮明に加工してあります	
	
● 写真番号：1	撮影日又は撮影年月：20XX年X月

＜記載のポイント＞

実施区域の全体の状況が分かる写真を掲載してください。実施区域が広大など全景の写真の掲載が難しい場合は、代表的な場所の写真を複数示すなど、できるだけ全体の状況が分かるようにしてください。

また、できるだけ新しい時期に撮影された写真（原則として1年以内に撮影されたもの）にしてください。

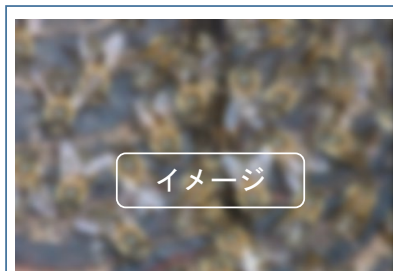
2. サイトの生物多様性の状況

<記載例>

2. サイトの生物多様性の現況	
価値（1）公的機関によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場	
【選定されている制度名】 環境省 重要里地里山 No.〇〇一〇 名称：自然共生市の里地里山	 <p>写真番号：2 写真の撮影年月：20xx年X月 写真の説明：申請区域内の水田（棚田）</p>  <p>写真番号：3 写真の撮影年月：20xx年X月 写真の説明：〇〇サンショウウオ</p>
【選定理由や内容】 選定理由（添付資料Xより引用） 自然共生市の北部において、長期間にわたり維持管理が行われてきた里地里山である。クヌギ・コナラ二次林や水田（棚田）のほか一部梅林やソバ畑などから構成され、現在もモザイク状の土地利用が維持されている。 この地域の里地里山に特徴的な〇〇サンショウウオや〇〇ヤンマといった希少種を含む多様な動植物も確認されている。	
<添付資料> 申請区域が選定等を受けていることが分かる資料（Webサイトの写し等）を添付 ※対応箇所や該当ページも記入ください 添付資料X:環境省HP「生物多様性保全上重要な里地里山No.〇〇-〇」 https://www.env.go.jp/nature/satoyama/senteichi_ichiran.html	

2. サイトの生物多様性の現況	
価値（2）原生的な自然生態系が存する場	
【場の概況】 原生的な自然生態系が存する場についての概況を記入。 本サイトの区域南西部の山稜付近には、スタジイなどからなる常緑広葉樹林の自然林が小面積であるが残されている。〇〇、〇〇などの動植物が確認されている。	 <p>写真番号：4 写真の撮影年月：20XX年X月 写真の説明：申請区域南西部の自然林の林内</p>  <p>写真番号：5 写真の撮影年月：20XX年X月 写真の説明：林床に自生する〇〇ラン</p>
【主な植生】 http://gis.biodic.go.jp/webgis/ にて環境省の現存植生図は確認可能 申請区域内の自然林における植生はヤブコウジースタジイ群集、シラカシ群集、△△群集である。なお、区域全体ではクヌギコナラ群集、ヤブツバキ群落、〇〇群落が優占している。	
【植生自然度】 植生自然度： http://gis.biodic.go.jp/webgis/files/vegetation_naturalness25000.pdf 植生自然度9	
【確認された主な動植物など】 申請区域全体では植物X種、動物X種が確認されている。そのうち自然林の区域で確認されたのは植物X種、鳥類X種、哺乳類X種、爬虫類X種、昆虫類X種であり（添付資料X）、主な種は以下のとおりである。 植物：シュンラン（ <i>Cymbidium goeringii</i> ）、コオニユリ（ <i>Lilium leichtlinii</i> ）、△△（学名xxxxx xxxxx） 鳥類：クロツグミ（ <i>Turdus cardis</i> 、成体）、イカル（ <i>Eophona personata</i> 、成体）、××（学名xxxxx xxxxx） 昆虫類：エゾミドリシジミ（ <i>Favonius jezoensis</i> 、成体）、シロスジカミキリ（ <i>Batocera lineolata</i> 、成体）、〇〇（学名xxxxx xxxxx）	
<添付資料> 現存植生図、原生生態の維持が分かる資料、動植物種のリストなどを添付 ※対応箇所や該当ページも記入ください 添付資料X:〇〇生物調査報告書（p.X自然林の区域において確認された動植物種の一覧）	

2.サイトの生物多様性の現況	
価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場	
【場の概況】 二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場についての概況を記入。 本サイトでは、区域中央に水田（棚田）がみられ、その他大半の区域がクヌギ・コナラ二次林であり、その一部に梅林やソバ畑が見られるなど、現在もモザイク状の土地利用が残されている。〇〇、〇〇などの動植物が確認されている。	 <p>写真番号：6 写真の撮影年月：20XX年X月 写真の説明：水田（棚田）の様子</p>  <p>写真番号：7 写真の撮影年月：20XX年X月 写真の説明：水田（棚田）周辺で確認された〇〇</p>
【主な植生】 申請区域内の自然林における植生はヤブコウジ・スダジイ群集、シラカシ群集、△△群集である。なお、区域全体ではクヌギ・コナラ群集、ヤブツバキ群落、〇〇群落が優占している。	
【確認された主な動植物など】 申請区域全体では植物X種、動物X種が確認されている。そのうち自然林の区域で確認されたのは植物X種、鳥類X種、哺乳類X種、爬虫類X種、昆虫類X種であり（添付資料X）、主な種は以下のとおりである。 植物：ナゴラン（ <i>Sedirea japonica</i> ）、コオニユリ（ <i>Lilium leichtlinii</i> ）、△△（学名xxxxx xxxxx） 鳥類：クロツグミ（ <i>Turdus cardis</i> 、成体）、イカル（ <i>Eophona personata</i> 、成体）、××（学名xxxxx xxxxx） 昆虫類：エゾミドリシジミ（ <i>Favonius jezoensis</i> 、成体）、シロスジカミキリ（ <i>Batocera lineolata</i> 、成体）、〇〇（学名xxxxx xxxxx）	
＜添付資料＞ ※対応箇所や該当ページも記入ください	
動植物種のリスト、二次的な自然環境の維持に寄与する活動を説明した資料などを添付 添付資料X:〇〇生物調査報告書（p.X水田・二次林で確認された動植物種の一覧）	

2.サイトの生物多様性の現況	
価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場	
【場の概況】 生態系サービスの提供の場についての概況を記入。 本サイトの区域中央部の水田（棚田）は、コメの生産のほか、エコツアーや社会科見学等において田植え体験を提供している。棚田とその周辺の二次林は自然観察会で利用されている。棚田下部のソバ畑や梅林では二ホンミツバチを利用した養蜂も行われている。	 <p>写真番号：8 写真の撮影年月：20XX年X月 写真の説明：棚田における田植えの様子</p>  <p>写真番号：9 写真の撮影年月：20XX年X月 写真の説明：二ホンズメバチ</p>
【主な植生】 区域内における主な植生は、ヤブコウジ・スダジイ群集、クヌギ・コナラ群集、ダブノキ・ヤブニッケイ二次林である。	
【確認された主な動植物など】 申請区域全体では植物X種、動物X種が確認されている（添付資料X）。主な種は以下のとおりである。 植物：コオニユリ（ <i>Lilium leichtlinii</i> ）、ヤマツツジ（ <i>Rhododendron kaempferi</i> ）、××（学名xxxxx xxxxx） 哺乳類：ホンダタヌキ（ <i>Nyctereutes viverrinus viverrinus</i> 、成体）、ホンダキツネ（ <i>Vulpes vulpes japonica</i> 、成体）、〇〇（学名xxxxx xxxxx） 鳥類：クロツグミ（ <i>Turdus cardis</i> ）、イカル（ <i>Eophona personata</i> 、成体）、コムクドリ（ <i>Agropsar philippensis</i> 、成体）××（学名xxxxx xxxxx） 爬虫類：ニホンカナヘビ（ <i>Takydromus tachydromoides</i> 、成体）、ジムグリ（ <i>Euprepophis conspicillata</i> 、成体）、△△（学名xxxxx xxxxx） 両生類：タゴガエル（ <i>Rana tagoi</i> 、成体）、〇〇サンショウウオ（学名xxxx xxxx）××（学名xxxxx xxxxx） 昆虫類：エゾミドリシジミ（ <i>Favonius jezoensis</i> 、成体）、アオハナムグリ（ <i>Cetonia roelofsi</i> 、成体）、××（学名xxxxx xxxxx）	
＜添付資料＞ ※対応箇所や該当ページも記入ください	
動植物種のリスト、☑ 提供する生態系サービスの内容が分かる資料などを添付 添付資料X:本サイトのコメ・ハチミツ生産量（XX年～XX年） 添付資料X:田植え体験・自然観察会の開催記録（XX年度） 添付資料X:〇〇生物調査報告書（p.X申請区域内で確認された動植物種の一覧）	

2.サイトの生物多様性の現況

価値（5）伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場

【場の概況】伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場の概況を記入
本サイトの大半の区域はクヌギ・コナラの二次林である。薪炭林としての利用は1960年代頃に減退しているが、一部、棚田周辺の二次林では祭事（焚火祭り）で用いるための薪採取が現在まで毎年続いている。

【伝統文化等の名称】

〇〇神社「焚火祭り」

地元〇〇市内の〇〇神社で明治時代から行われている五穀豊穡を願う祭りで、〇〇市内で採取された薪を利用して境内の十数か所で焚火が行われる。2007年には100年祭が行われ、〇〇市無形文化財に指定されている（20XX年）。〇〇神社の信仰は明治時代以前から続いていたが、焚火祭りが行われるようになったのは1907年からとされている。

【活用している自然資源】

本サイトでは、焚火祭の薪材として使用するために棚田周辺の二次林から、樹齢X年～X年程度のコナラを伐採し、毎年X月にXkg程度の薪を奉納している。本サイトからの薪材の奉納は1980年代に始まっており、20XX年を除き毎年継続して供給している。

<添付資料>

自然資源が伝統文化に活用されていることが分かる資料などを添付

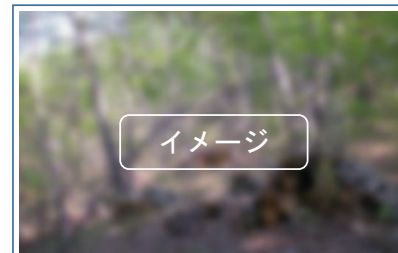
※対応箇所や該当ページも記入ください

添付資料X:〇〇市史第X巻第X章（p.X～p.X「〇〇神社焚火祭り」）

添付資料X:奉納書（令和X年X月X日）



写真番号：10 写真の撮影年月：20XX年X月
写真の説明：焚火祭りの様子



写真番号：11 写真の撮影年月：20XX年X月
写真の説明：焚火祭りの薪として伐採されたコナラ

2.サイトの生物多様性の現況

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】希少な動植物種が生息生育している場の概況について記入。

本サイトでは、水田（棚田）、クヌギ・コナラ二次林などで構成されたモザイク状の土地利用が残され、典型的な里地里山の環境が見られる。こうした里地里山の環境に特徴的な〇〇、〇〇などの希少な動植物種が確認されている。

【確認された希少種】

本サイト内では、主に棚田とその周辺の二次林の区域で、環境省レッドリストまたは〇〇県レッドリストに掲載された希少種として植物X種、鳥類X種、爬虫類X種、両生類X種、昆虫類X種が確認されている（添付資料X）。主な種は以下のとおりである。

・〇〇サンショウウオ（学名：XXXX XXXX、環境省レッドリストEN、〇〇県レッドリストEN）

毎年、〇〇サンショウウオの卵塊が2月ごろに確認され、成体も確認されている。初めて生物調査が行われたのが19XX年であり、以降19XX年と20XX年を除き毎年確認されている。（添付書類X参照）

・〇〇ヤンマ（学名：XXXX XXXX、〇〇県レッドリストVU）

棚田付近で成体が確認されている。〇〇サンショウウオと同じく19XX年から生物調査により確認されており、以降20XX年を除き毎年確認されている。（添付書類X参照）

<添付資料>

動植物種のリスト（和名、学名、レッドリストのカテゴリ、ライフステージ（成虫、幼虫など）、調査手法（目視、ライセンスカメラ、自動撮影カメラなど）、調査/確認地点などの情報がわかる資料を添付

※対応箇所や該当ページも記入ください

添付資料X:申請区域内で確認された希少種の一覧

添付資料X:〇〇サンショウウオの確認記録（20XX年～20XX年）



写真番号：12 写真の撮影年月：20XX年X月
写真の説明：〇〇サンショウウオの卵塊



写真番号：13 写真の撮影年月：20XX年X月
写真の説明：〇〇ヤンマ

2.サイトの生物多様性の現況

価値（7）分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場

【場の概況】生態に特殊性のある種が生息生育している場の概況について記入。

本サイト内にある〇〇周辺地帯には蛇紋岩が露出している箇所が見られる。蛇紋岩はケイ素とマグネシウムを含む超塩基性の性質により、植物の生育が難しいという特徴があるが、一部〇〇、〇〇などの蛇紋岩地に適応した植物が生息している。

【確認された分布限定種、特異な環境へ依存する種】

蛇紋岩残存植物や蛇紋岩変形植物など、蛇紋岩地に適応した植物が生息している。主な種は以下のとおりである。

・〇〇ソウ（学名：XXXX XXXX）

毎年、2月ごろに〇〇が確認され、6月ごろに開花も確認されている。初めて生育が確認されたのが19XX年であり、以降19XX年と20XX年を除き毎年確認されている。（添付書類X参照）

・〇〇ハコベ（学名：XXXX XXXX）

〇〇付近で生育が確認されている。〇〇ソウと同じく19XX年から生息状況調査により確認されており、以降20XX年を除き毎年確認されている。（添付書類X参照）

<添付資料>

分布限定種、特異な環境へ依存する種の情報（種名、確認地点、繁殖の有無等）資料を添付

※対応箇所や該当ページも記入ください

添付資料X:申請区域内で確認された植物種の一覧

添付資料X:〇〇ソウ、〇〇ハコベの確認記録（20XX年～20XX年）

イメージ

写真番号：14 写真の撮影年月：20XX年X月

写真の説明：〇〇ソウの生息地

イメージ

写真番号：15 写真の撮影年月：20XX年X月

写真の説明：〇〇ハコベ

2.サイトの生物多様性の現況

価値（8）越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場

【場の概況】

申請サイト中央部の水田（棚田）とその緑辺の二次林は、サシバが繁殖・採餌する場となっている。水田（棚田）では、環境保全型農業（無農薬、冬期湛水）を実施している。

【対象となる動物種とその動物種の生活史の内容】

対象となる動物種：サシバ（学名：XXXXXX）。毎年X月～X月に本サイトに飛来しており、直近では本年X月X日に2個体（成体）を確認している（添付資料X）。

生活史の内容：申請サイトにおけるサシバの生活史は、繁殖と採餌である。

① 繁殖：20XX年以降の毎年、水田（棚田）緑辺の二次林にある中・大径のマツ等に1つがい（営巣・抱卵・給餌し、20XX年を除き巣立ちの成功を確認している。20XX年の調査で確認された毎年の営巣木の位置（20XX年～20XX年）、営巣時の写真は添付資料Xのとおりである。

② 採餌：主に水田（棚田）において主にカエル類（〇〇ガエル等）、ヘビ類（〇〇ヘビ等）、バッタ類などの捕食が確認されている。20XX年の調査において、サシバによる捕食が確認された動物は添付資料Xのとおりである。

サシバの繁殖・採餌は申請サイトの水田（棚田）と二次林に依存しているが、周辺地域で耕作放棄等が進んでいるため申請サイトは貴重な環境と考えられる（添付資料X）。

<添付資料>

対象となる動物種とその動物種の生活史に関する情報、資料、既存研究等を添付

※対応箇所や該当ページも記入ください

添付資料X:20XX年度サシバ生息調査報告書（営巣等確認の記録p.〇～p.〇、採餌p.〇、周辺地域の生息環境p.〇）

イメージ

写真番号：16 写真の撮影年月：20XX年X月

写真の説明：申請区域内を飛翔するサシバ

イメージ

写真番号：17 写真の撮影年月：20XX年X月

写真の説明：サシバが捕食する〇〇ガエル

2. サイトの生物多様性の現況	
価値(9) 既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場	
<p>【場の概況】</p> <p>申請サイトの西側に隣接して〇〇国立公園（特別地域、普通地域）が指定されている。申請区域が〇〇国立公園特別地域と隣接している部分のスダジイ等の自然林である。</p>	 <p>図の説明：申請区域と〇〇国立公園との位置関係図 出典：環境省資料より作成</p>
<p>【主な植生】</p> <p>国立公園特別地域との隣接部分の植生は主に〇〇群集、〇〇群集、〇〇群集であり、ウラジロガシやスダジイの自然林である。その周辺の申請区域内の植生は〇〇群集などであり、クヌギ・コナラの二次林である。</p>	
<p>【隣接・接続する保護地域等】</p> <p>〇〇国立公園（第1種特別地域、普通地域）</p>	 <p>写真番号：16 写真の撮影年月：20XX年X月 写真の説明：申請区域南西部の自然林の林内</p>
<p>【緩衝機能や連続性・連結性の機能】</p> <p>申請サイトは、区域西部で〇〇国立公園に隣接している(右図)。〇〇国立公園は常緑広葉樹自然林の景観等を保護しており、申請サイトの自然林・二次林は、国立公園から約Xkm程度の緩衝幅で(添付資料X)、〇〇市中心部方面からの人間活動に対する緩衝機能を有している。</p> <p>また、申請サイトの区域南西部には小面積のスダジイ等の自然林が残存している。〇〇国立公園第1種特別地域と同じ植生が連続して分布しており(添付資料X)、申請サイトは常緑広葉樹の自然林の連続性を高める機能を有している。</p>	
<p><添付資料> 隣接する保護地域を含む植生図、連続性・連結性を高める機能を有することがわかる資料等を添付</p> <p>※対応箇所や該当ページも記入ください</p> <p>添付資料X:申請区域と〇〇国立公園の位置関係図 添付資料X:申請区域及び〇〇国立公園を含む植生図</p>	

＜記載のポイント＞

実施区域における生物多様性の状況について、活動により増進を図る生物多様性の価値ごとに記入ください。

生物多様性の価値は1から9までであるため、該当する価値の項目のみ記入ください。

各価値における記載内容や提出物の詳細は、「別紙2 生物多様性の価値」を参照ください。

(参考) 別紙2 生物多様性の価値

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-append02-ValueofBiodiversity.pdf>

(1) 共通補足1 生物の名称

生物の名称は、標準和名を記入ください。また、可能な場合は、学名やライフステージ(成体・幼生等)を合わせてご記入ください(価値6と7の場合は学名やライフステージの記載は必須)。

なお、目撃情報はあるが正確な種名が分からない場合は、その旨を併せてご記入ください。

(2) 共通補足2 域外から導入された生物種

サイト内に生息生育している動植物が域外から導入されたものである場合は、その旨を明記してください。そして、どの地域からの導入種(入手年月日含む)である

か、自然繁殖しているかをご記入ください。また、可能な場合は遺伝的多様性にどのように配慮しているかも併せて記入してください。

(3) 共通補足3 複数の生態系タイプ、区域の記載方法

複数の生態系タイプ、区域を記載する場合は、どのタイプ、区域の説明かが分かるように整理して作成してください。

例：【草地エリア】

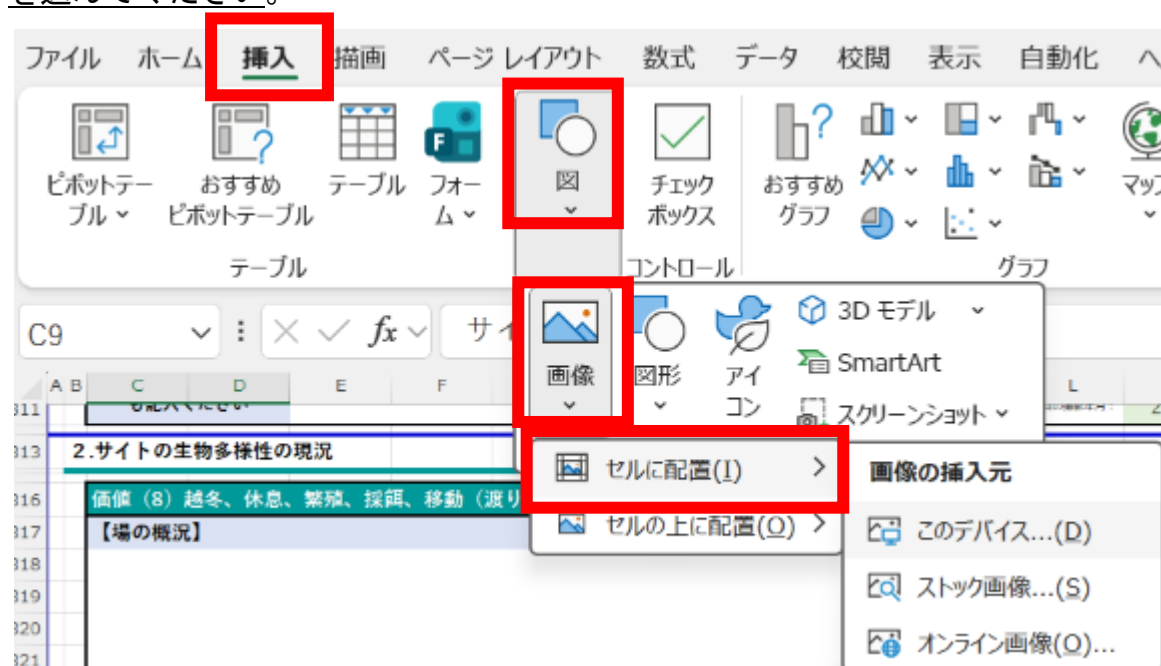
〇〇バッタ、〇〇チョウ…

【いこいの広場】

〇〇チョウ、〇〇トカゲ…






(4) 共通補足3 図の挿入方法

掲載する写真については、Excel「挿入」タブー「図」ー「画像」ー「セルに配置」を選んでください。



3. 関連情報（生態系サービス）

<記載例>

3.関連情報（生態系サービス）（任意（※ただし、価値4に該当する場合は必須））			
区域が有している生態系サービス	申請区域が有している生態系サービスについて、チェックを入れてください(複数選択可)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 供給サービス 食糧、水、木材、繊維、燃料 など	<input type="checkbox"/> 調整サービス 気候調整、水質保全、病虫害抑制、防災・減災 など	<input checked="" type="checkbox"/> 文化的サービス 精神的充足、美的楽しみ、レクリエーション、教育的効果 など
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  循環経済 </div> <div style="text-align: center;">  食 </div> <div style="text-align: center;">  脱炭素 </div> <div style="text-align: center;">  農山村 </div> <div style="text-align: center;">  いやし </div> <div style="text-align: center;">  健康 </div> </div>		
生態系サービスの概況	<p>【供給サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 棚田では米が生産され出荷されている。 ・ ニホンミツバチによる養蜂も行っており草地で栽培したソバの花から採蜜された蜂蜜と、サイト内の花々から採蜜された百花蜜を出荷している。 <p>【文化的サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然体験や農業体験（動植物の観察会、田植え体験など）を提供している。観光客を対象として定期的に催行しているエコツアー、また市内小学校の社会科見学や周辺地域の方々のレクリエーションにおいて利用されている。 		
脱炭素、環境負荷低減など関連する取組（あれば）			

<記載のポイント>

生物多様性の価値4に該当する場合は、記入必須です。それ以外の生物多様性の価値に該当する場合は、任意で記入ください。

「区域が有する生態系サービス」

供給サービス、調整サービス、文化的サービスから該当するものにチェックを入れてください。複数該当する場合は、複数にチェックを入れてください。

「生態系サービスの概況」


どのような生態系サービスを提供する場であるかについてご記入ください。生態系サービスについて定量的な情報（炭素固定量等）を把握されている場合は、その内容（計算方法、計算結果等）もご記入ください。

「脱炭素、環境負荷低減など関連する取組」

実施区域や周辺地域で行われている脱炭素に関する取組を把握するためにご記入いただくものです。該当するものがあればご記入ください。本項に記入する事項は、生態系サービスに関連したもの以外（再生可能エネルギーの導入等）でもかまいません。

4. 追加写真用シート

<記載例>

4. 追加写真用シート (任意)									
									
写真番号: 17 写真の撮影年月: 20XX年X月									
写真の説明: 申請区域内の二次林でみられる○○									

<記載のポイント>

該当する生物多様性の価値を有することが分かる写真など、他のページでは添付しきれないものがあれば示してください。写真番号、撮影年月、説明とともに本シートに添付してください。また、撮影位置を「写真の撮影位置」に示してください。

5. 写真の撮影位置

<記載例>



<記載のポイント>

本シートで添付した写真の撮影位置を（可能であれば撮影方向も）、「区域図」を背景にして示してください。

6. サイトの追加情報

伝えたい情報などあれば、自由に記入ください。

X. 様式1—2 別紙3 認定された場合の確認事項

a 認定後、5年毎に、サイトの状況が分かる資料（モニタリング結果等）を提出いただく予定です。

5年に一度サイトの状況が分かる資料の提出の可否についてチェックしてください。

「地域生物多様性増進活動の手引き（概要編）—」「第3章 認定後について I. モニタリング」も併せてご確認ください。

b 認定を受けた自然共生サイトを環境省のWEB ページ等で公開する予定です。

環境省 WEB サイトで公表することの可否についてチェックしてください。

公開を差し控えたい情報がある場合は、右の項目にチェックいただき、公開を控えた内容について詳細を記載してください。

公表内容としては、①計画名、②サイト名、③申請者名、④所在地（市町村まで）を一覧として公表予定です。

また、作成いただいた「様式1—3 活動計画概要」をサイト概要として、環境省WEB サイトに掲載予定です。

c 見える化マップに関する質問事項

1. サイトの区域の公開について

見える化マップにおける自然共生サイトの公開の可否に関する項目です。

原則、区域の詳細表示（ポリゴンデータ表示）での対応ですが、やむを得ず、区域の詳細表示ができない場合は「区域表示しないことを希望する」を選択いただき、表示形式を選択するとともに、区域表示できない理由を記載してください。

<見える化マップにおける表示形式>



2. サイトの開放状況について

一般の方の訪問の可否について、最も当てはまるものを選択してください。なお、回答結果は生物多様性見える化マップにも反映いたします。

d OECM 国際データベースに関する質問事項

自然共生サイトの OECM 登録に係る項目です。原則として区域の詳細表示（ポリゴンデータ）での表示をお願いしております。

（１）回答の前のチェック項目

- ② 維持タイプのサイトの有無についてチェックしてください。
- ② 実施区域の全部が保護地域に含まれることが明確な場合は、「実施区域の全部が保護地域内に含まれる」にチェックを入れてください。
実施区域と保護地域が重複しない、または保護地域との重複はあるが完全には含まれない、重複状況はわからない場合については、「以下のどれかに該当する」にチェックを入れてください。

（２）質問１～６

回答の前のチェック項目で、「以下のどれかに該当する」にチェックを入れた場合のみ回答ください。本項目に記載された内容がそのまま OECM 国際データベースに掲載されますので、ご注意ください。（特に活動責任者名は個人で申請されている方以外は、団体名（法人名）を記入ください）

e 30by30 アライアンスに関する質問事項

共同申請者（連携増進活動実施計画の場合は、連携活動実施者）も含めて参加状況を選択してください。一部未参加で参加予定の場合は、参加団体名、連絡先をご記入ください。

XI. 様式 1－3 活動計画概要

活動計画、モニタリング計画等の概要を記入ください。

右上の活動類型は該当のもの以外は削除してください。また、写真については、実施区域の様子分かる図・写真や活動内容が分かる図・写真等を掲載してください。

なお、公表資料に活用するため、公開不可な情報を記載しないようにしてください。

<記載例>

様式1-2 別紙2		〇〇〇〇計画の概要	申請者：〇〇〇〇	【維持・回復・創出タイプ】
【実施区域・面積】 〇〇県、〇〇ha	【生態系タイプ】 里山林、二次草原・草地、水田	 		
【実施区域の状況】 市街化区域内であり、周辺は住宅用地等に開発された中に残っている貴重な里山の環境である。この地域の地形の特色である谷津田が残り、台地・斜地・低地で構成され、樹林地や斜面林が保全されている。				
【目標】 多様な動植物が生息・生育する里山生態系を維持する。自然と人間が共存した証が残る里山の文化的資源（古民家を含む里山景観）を維持する。そうした資源を学校教育支援・環境教育に役立てる。				
【主な活動内容】 草地広場では、昆虫の生息可能な高さ10cm以上を残しながら草刈りを行う。水田では、畦畔の機械除草や有機栽培、水路との連続性の確保等により水生生物の生息環境を守る。希少種が多い樹林下では、下草刈り（特に笹刈り）を行い、光環境を確保する。				
【モニタリング計画】 鳥類、両生類、昆虫類、植物を対象として、①二次林ゾーン：二次林内に設定したルート沿い、②棚田ゾーン：5地点、③自然林ゾーン：自然林内に設定したルート沿いにおいて、モニタリングを実施。基本的には2年に1度の頻度で実施。実施年の2月、4月、5月、8月、11月に実施。				
【実施体制】 〇〇株式会社は、活動計画を作成し、年に4回程度〇〇作業を実施している。また月に1回程度、小学生を対象とした観察会を開催している。〇〇の社の自然を守る会は、日常的な点検、下草刈り、〇〇など外来種の除去などを実施している。	【計画期間】 令和〇年〇月～令和〇年〇月			

XII. 様式 4－1 特例措置の活用に関する事項

特例措置を活用しない場合を含め、提出必須の様式です。

特例措置の活用の有無及び特例措置を活用する場合は、活用しようとする特例措置について、該当するものにチェックを入れてください。

第4章 添付書類

1. 添付1 GISデータ

実施区域の範囲の把握、面積の算定とともに、OECM国際データベース登録に該当する場合にも活用します。

GISデータの作成については別添の「GISポリゴンデータ作成マニュアル」をご確認ください。

添付資料の内容	形式
<ul style="list-style-type: none">・GISデータ（Shapeファイル、KMLファイル等） <p>■GISデータの提出が困難な場合</p> <ul style="list-style-type: none">・区域の位置を明らかにした位置図 （例えば、縮尺1/25000程度の地形図に位置を記したもの）・面積の根拠が分かる資料や面積計算図	Shapeファイル、 KMLファイル等
上述の資料の提出が困難な場合（地籍測量が未終了の土地所有界を区域の境界に用いる等）には、公図等を基に区域の境界線を図示した縮尺1/25000程度の地形図等	

（補足）実施区域の範囲の考え方

申請範囲には、生物多様性の価値と関連のない人工物や工作物を含まないようご注意ください。ただし、生物多様性、生態系サービス（文化的な価値を含みます）や保全・利用等の活動に関連する一体不可分の工作物については、最低限のものに限り含めることが出来ます。判断に迷う場合には、事務局（ERCA）に相談ください。

「生物多様性、生態系サービス（文化的な価値を含みます）や保全・利用等の活動の関係から一体不可分」の考え方については、例えば、以下をご参照ください。

- ア 工作物の設置目的や役割に着目して判断。「生物多様性の価値がある範囲」のために作られた工作物が該当する。例えば、「生物多様性の価値がある範囲」が失われた場合（例：生物多様性の価値がある公園や緑地そのものが廃止された場合等）、その工作物が単独で存在し続ける必要があるかどうかを判断基準とできる。例として、生物多様性の価値を有する公園内のベンチ・園路（ベンチや園路は公園のために設置されたもの）や生物多様性の価値を有する緑地等の管理小屋（管理小屋は緑地等の維持管理のために設置されたもの）は含めることが出来る。

イ 特に文化的な価値から一体不可分の工作物。例として、社寺林の社寺、屋敷林の屋敷など。

(参考) 申請区域の GIS ポリゴンデータ作成マニュアル

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/30by30site-GIS-application-form7f.pdf>

(参考) 申請区域 GIS ポリゴンデータの作成 (ERCA、YouTube 動画)

<https://youtu.be/T-C78A4MDR8?si=txg8CZczoRiUmVYK>

II. 添付 2 生物多様性の現況

活動類型が「生物多様性を維持する活動」(維持タイプ)である場合には、必須です。
該当する場合には、活動により維持することとなる生物多様性の価値 1～9 について、実施区域内で確認された動植物リストをはじめとして、それぞれ根拠となる資料を添付いただきます。

詳細は、「別紙 2 生物多様性の価値」を参照ください。

(参考) 別紙 2 生物多様性の価値

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/HowBio/30by30site-append02-ValueofBiodiversity.pdf>

(参考) 生物多様性の価値 一覧

生物多様性の価値		添付資料の概要
場 : 豊かな生物多様性を育む場としての価値		
	① 公的機関によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場としての価値	・ 重要里地里山・重要湿地・重要海域・特定植物群落・巨樹巨木林に該当していることが分かる資料
	② 原生的な自然生態系が存する場としての価値	・ 最新版の 1/25000 の現存植生図 ・ 原生状態が長期にわたり維持されていることが分かる資料 ・ 区域で確認された動植物種の情報が分かる資料
	③ 里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場としての価値	・ 区域で確認された動植物種の情報が分かる資料 ・ 区域で行われてきた、二次的な自然環

		<p>境の維持に寄与する活動を説明した資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新版の 1/25000 の現存植生図
	④ 生態系サービス提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場としての価値	<ul style="list-style-type: none"> ・区域で確認された動植物種の情報が分かる資料 ・提供する生態系サービスの内容が分かる資料
	⑤ 伝統工芸や伝統行事といった地域の伝統文化のために活用されている自然資源の供給の場としての価値	<ul style="list-style-type: none"> ・供給する自然資源及び地域の伝統文化の情報が分かる資料 ・地域の伝統文化に活用されていることが分かる資料
種：希少な動植物の生息地または生育地としての価値		
	⑥ 希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場としての価値	<ul style="list-style-type: none"> ・区域で確認された希少な動植物種の情報が分かる資料
	⑦ 分布が限定されている、特異な環境へ依存するなど、その生態に特殊性のある種が生息生育している場又は生息生育の可能性が高い場としての価値	<ul style="list-style-type: none"> ・区域で確認された特殊性のある動植物種の情報が分かる資料
機能：生態系の連結性その他の生物多様性に関する重要な機能としての価値		
	⑧ 越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）など、動物の生活史にとって重要な場としての価値	<ul style="list-style-type: none"> ・区域で確認された越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）などを行っている動物種の情報が分かる資料 ・対象とする動物種が越冬、休息、繁殖、採餌、移動（渡り）などで実施区域を利用していることが分かる資料
	⑨ 既存の保護地域又は自然共生サイト認定区域に隣接する若しくはそれらを接続するなど、緩衝機能や連続性・連結性を高める機能を有する場としての価値	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する保護地域等との位置関係が分かる図面 ・実施区域及び隣接する保護地域等を含む植生図 ・周辺に存在する緑地等との位置関係が分かる図面 ・連続性・連結性を高める機能を有する

		<p>ことが分かる資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区域で確認された動植物種の情報が分かる資料
--	--	---

<区域内の動植物種リストの記載例>

※主に価値2、3、4の申請の添付資料として求められる種リスト（区域で確認された動植物種の情報が分かる資料）は様式自由ですが、典型的な記入を例示します。橙色の列（種名）は必須です。	記入例
---	------------

添付資料X：申請区域内で確認された動植物種の一覧							
調査期間：2010年1月～2022年12月、調査団体：NPO法人 ○○○							
	種名	学名	確認年月	ライフステージ	調査手法	確認地点	備考
鳥類	ヤマガラ	<i>Sittiparus varius</i>	2022年10月	成鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（北東）	2020年、2021年にも確認。
	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	2022年5月	成鳥・幼鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（北東）	2010年以降毎年確認
	○○○○	××××	2022年3月	成鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（北東）	
	○○○○	××××	2022年8月	不明	ラインセンサス	自然林ゾーン	
	○○○○	××××	2022年6月	幼鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（北東）	目視
	○○○○	××××	2022年1月	成鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（北東）	目視
	○○○○	××××	2022年1月	不明	定点観察	棚田ゾーン	
	○○○○	××××	2022年時期不明	成鳥	定点観察	棚田ゾーン	
両生類	トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius tokyoensis</i>	2022年4月	卵	定点観察	棚田ゾーン（水路）	
	○○○○	××××	2022年8月	成体	定点観察	棚田ゾーン（水路）	毎年確認
	○○○○	××××	2022年4月	幼体	定点観察	棚田ゾーン	
昆虫類	オニヤンマ	<i>Anotogaster sieboldii</i>	2022年8月	成虫	定点観察	棚田ゾーン	
	○○○○	××××	2022年8月	成虫	定点観察	棚田ゾーン	
植物	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	2022年4月	開花	ラインセンサス	二次林ゾーン（北西）	
	○○○○	××××	2022年4月	成木	ラインセンサス	自然林ゾーン	
	○○○○	××××	2022年8月	不明	ラインセンサス	自然林ゾーン	
	○○○○	××××	2022年8月	不明	定点観察	棚田ゾーン	
	○○○○	××××	2022年4月	稚樹	ラインセンサス	自然林ゾーン	同ゾーンにて多数確認。
	○○○○	××××	2022年8月	不明	定点観察	棚田ゾーン	

注：確認地点のゾーンの位置等の詳細については添付資料X「○○活動計画」を参照。

※価値6、7の申請の添付資料として求められる種リスト（価値6「区域で確認された希少な動植物種の情報が分かる資料」、価値7「区域で確認された特殊性のある動植物種の情報が分かる資料」）は様式自由ですが、典型的な記入を例示します。価値6では、橙色のセル（種名～確認地点）が必須です。価値7では、このうち「環境省レッドリストのカテゴリー」、「都道府県レッドリスト等のカテゴリー」以外が必須です。	記入例
---	------------

添付資料X：申請区域内で確認された希少な動植物種の一覧									
調査期間：2010年1月～2022年12月、調査団体：NPO法人 ○○○									
	種名	学名	確認年月	環境省レッドリスト のカテゴリー	都道府県レッドリスト等 のカテゴリー	ライフステージ	調査手法	確認地点	備考
鳥類	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	2022年1月		絶滅危惧Ⅲ類 (VU)	成鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（棚田付近）	目視
	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	2022年2月	準絶滅危惧（NT）	準絶滅危惧（NT）	成鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（北東）	2010年以降毎年確認
	○○○○	××××	2022年10月	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	成鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（北東）	2020年、2021年にも確認。
	○○○○	××××	2022年6月	準絶滅危惧（NT）	準絶滅危惧（NT2）	幼鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（北東）	
	○○○○	××××	2022年8月	準絶滅危惧（NT）	準絶滅危惧（NT）	不明	ラインセンサス	自然林ゾーン	
	○○○○	××××	2022年2月	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	成鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（北東）	目視
	○○○○	××××	2022年1月		準絶滅危惧（NT2）	成鳥	ラインセンサス	二次林ゾーン（北東）	目視
	○○○○	××××	2022年1月		準絶滅危惧（NT2）	成鳥	定点観察	棚田ゾーン	
両生類	トウキョウサンショウウオ	<i>Hynobius tokyoensis</i>	2022年4月	絶滅危惧ⅠB類（EN）	絶滅危惧Ⅰ類（EN）	卵	定点観察	棚田ゾーン（水路）	
	○○○○	××××	2022年8月	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	成体	定点観察	棚田ゾーン（水路）	毎年確認
	○○○○	××××	2022年4月	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	準絶滅危惧（NT）	幼体	定点観察	棚田ゾーン	
昆虫類	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda charonda</i>	2022年6月	準絶滅危惧（NT）	準絶滅危惧（NT）	成虫	定点観察	二次林ゾーン（棚田付近）	
	○○○○	××××	2022年8月	準絶滅危惧（NT）	準絶滅危惧（NT）	成虫	定点観察	棚田ゾーン	
植物	キンラン	<i>Cephalanthera falcata</i>	2022年4月	絶滅危惧Ⅱ類（VU）		開花	ラインセンサス	二次林ゾーン（北西）	
	○○○○	××××	2022年8月	準絶滅危惧（NT）	準絶滅危惧（NT）	不明	ラインセンサス	自然林ゾーン	
注：環境省レッドリストのカテゴリーは「環境省レッドリスト2020」による（https://www.env.go.jp/XXXXXXXXXX）									
注：都道府県レッドリスト等のカテゴリーは「○○県レッドデータブック2018動物」による（https://www.XXXXXXX）									
注：確認地点のゾーンの位置等の詳細については添付資料X「○○活動計画」を参照。									

注：環境省レッドリストのカテゴリーは「環境省レッドリスト2020」による（<https://www.env.go.jp/XXXXXXX>）

注：都道府県レッドリスト等のカテゴリーは「○○県レッドデータブック2018動物」による（<https://www.XXXXXX>）

注：確認地点のゾーンの位置等の詳細については添付資料X「○○活動計画」を参照。

III. 添付3 公物等の管理区域に関する記録

該当する場合に提出が必要です。

実施区域と公物等の管理区域の重複がある場合には、同意に関する記録等を提出ください。

添付資料の内容	様式
・ 同意に関する記録 (例：同意書、メールのやりとりのコピー、会議録 等)	PDF、Word、メール 等

協議に関する記録等の添付が困難な場合は、確認又は同意方法の詳細（担当者、説明内容、確認方法等）を様式1-2又は様式2-2公物等記入シートの「確認又は同意の方法」の欄に記入ください。

農林水産省、国土交通省が管轄する公物の同意書については、以下のホームページにサンプルが掲載されておりますので併せてご確認ください。

(参考) 農林水産省

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/tayousei.html

(参考) 国土交通省

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000177.html

(参考) 公物等管理者の確認・同意について

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-Consentconfirm.pdf>

IV. 添付 4 モニタリング計画

該当する場合に提出が必要です。

様式 1－2 又は様式 2－2 別紙 2 ①活動内容にモニタリング計画を記載するか、添付 4 として別添ください。

添付資料の内容	様式
<p>■<u>モニタリング調査を概ね 5 年に一度の頻度で実施している又は実施する見込みに該当する場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング計画書の写し （調査の対象項目、実施時期及び頻度、場所、手法、実施体制を記したものが望ましい。有識者等が調査に関与している場合、当該有識者等の経歴、専門分野等も含む。モニタリング地点の位置がわかる図面があれば併せて提出すること） ※現在モニタリングを実施していない場合でも、簡易的なモニタリング計画で構わないので、これを機会に作成いただくことが望ましい。 <p>■<u>自治体のレッドリスト評価における調査又はモニタリングサイト 1000 調査等によって把握されている場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのことが分かる資料 （例えば、該当するモニタリングサイト 1000 の位置とモニタリング内容など） <p>■<u>現状の活動を継続することによって、土地の大きな改変を予防するとともに、生物多様性の価値を大きく劣化させるおそれがない場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのことが分かる資料（例えば、通常の巡視の内容など） 	自由

V. 添付5 整備計画等資料

該当する場合に提出が必要です。

実施区域で整備計画等がある場合、当該整備計画等の資料を添付してください。

当該整備計画等が地域生物多様性増進活動に与える影響も踏まえて、想定される負の影響や、整備計画等との調整・対応状況についてわかる資料も添付してください。

添付資料の内容	様式
・整備計画等の概要が確認できる資料	自由

VI. 添付6 協議会・意思疎通方法

該当する場合に提出が必要です。

協議会等を設置している場合には、協議会の構成や関係する議事録を添付してください。

協議会などが存在しない場合は、様式1-2又は様式2-2本体の「(2)実施体制及び役割分担」に記入ください。

添付資料の内容	様式
■既存の協議会等が存在する場合 ・定款等その他の意思疎通の機会や頻度が確認できる資料	自由

VII. 添付7 所有・賃貸関係（期限がある場合）

該当する場合に提出が必要です。

土地の所有や賃借等に期限が存在する場合（例えば、市町村の施設を指定管理者として管理している者が申請者である場合など）に、その詳細が分かる資料を添付してください。

添付資料の内容	様式
当該期限までの期間等が確認できる資料 （年度契約等の場合は、過去5年間の契約実績が確認できる資料）	自由

VIII. その他添付資料

土地の所有者等の同意書、関連する計画（森林経営計画※等）など増進活動実施計画に関連して追加で提出したい資料を添付してください。

※実施区域において、あらかじめ、森林経営計画を作成し認定を受けている場合には、同計画に基づき伐採等の届出の提出が免除されるほか、森林経営計画書を添付し参照することで、（連携）増進活動実施計画（様式 1－2、2－2）の記載項目の一部の記述も簡略化できるため、「地域生物多様性増進活動の手引き（概要編）」－「第 2 章 IV 活動の内容及び実施時期」や本手引き「第 5 章 V. 様式 4－6 伐採等の届出」の記述もご参照ください。

第5章 特例措置を活用する場合のみ提出（様式4－2～4－6）

1. 様式4－2 行為規制等

特例を活用しようとする場合のみ、提出してください。

自然公園法、自然環境保全法、種の保存法、鳥獣保護管理法、都市緑地法の許可・届出等に関する特例については、様式4－2を用いてください。この様式の中でも複数の種類の特例を活用しようとする場合には、行為の種類・場所ごとにこの様式を作成してください。

1. 自然公園法

（1）個別法に関する問い合わせ先

- ・ 国立公園：環境省地方環境事務所又は最寄りの自然保護官事務所
- ・ 国定公園：都道府県の自然公園担当部局

（2）添付資料

地域区分	行為の種類	添付資料
特別地域 / 特別保護地区 / 海域公園地区 / 普通地域	全て共通	1. 行為の場所を明らかにした縮尺 1/25000 程度の地形図 2. 行為地及びその付近の状況を明らかにした縮尺 1/5000 程度の概況図及び天然色写真 3. 行為の施行方法を明らかにした縮尺 1/1000 程度の平面図、立面図、断面図及び意匠配色図 4. 行為終了後における植栽その他修景の方法を明らかにした縮尺 1000 分の 1 程度の図面 5. 縮尺 1/1000 程度の構造図その他の必要な書類 ^(※) ※環境大臣又は都道府県知事が必要があると認めるときに限る

（参考）

国立公園における届出・申請

https://www.env.go.jp/park/apply/park_apply.html

2. 自然環境保全法

(1) 個別法に関する問い合わせ先

- ・ 自然環境保全地域：環境省地方環境事務所又は最寄りの自然保護官事務所
- ・ 沖合海底自然環境保全地域：環境省自然環境局自然環境計画課

(2) 添付資料

地域区分	行為の種類	添付資料
自然環境保全地域（特別地区/ 海域特別地区/ 普通地区）/沖 合海底自然環境 保全地域	全て共通	次に掲げる図面のうち必要なものを添付する。 1. 縮尺 1/50000 程度の地形図 2. 縮尺 1/5000 程度の概況図 3. 天然色写真（カラー写真） 4. 縮尺 1/1000 程度の平面図、立面図、断面図、構造図及び意匠配色図（立面図に彩色したものでも可） 5. 縮尺 1/1000 程度の復元計画を明らかにした図面
沖合海底自然環境保全地域	全て共通	1. 特定行為の実施場所を明らかにした図面 2. 特定行為の実施場所及びその付近の状況を明らかにした概況図及び写真（鉱物の掘採（採掘）を行う場合に限る。） 3. 特定行為の施行方法を明らかにした平面図、立面図、断面図及び構造図 4. 特定行為に用いる船舶の外観を明らかにした写真

3. 種の保存法

(1) 個別法に関する問い合わせ先

- ・ 環境省地方環境事務所又は最寄りの自然保護官事務所

(2) 添付資料

地域区分	行為の種類	添付資料
生息地等保護区 (管理地区 / 監視地区)	工作物の新(改、増)築	1. 行為地の位置を明らかにした縮尺 1:50,000 以上の地形図 2. 行為地及びその付近の状況を明らかにした縮尺 1:5,000 以上の概況図及び天然色写真 3. 行為の施行方法を明らかにした縮尺 1:1,000 以上の平面図、立面図、断面図及び構造図
	・ 土地の形質変更 ・ 鉱物の掘採(土石の採取) ・ 埋立、干拓 ・ 水位(水量)に増減を及ぼさせる行為	1. 行為地の位置を明らかにした縮尺 1:50,000 以上の地形図 2. 行為地及びその付近の状況を明らかにした縮尺 1:5,000 以上の概況図及び天然色写真 3. 行為の施行方法を明らかにした縮尺 1:1,000 以上の平面図、断面図
生息地等保護区 (管理地区)	木竹の伐採	1. 行為地の位置を明らかにした縮尺 1:50,000 以上の地形図 2. 行為地及びその付近の状況を明らかにした縮尺 1:5,000 以上の概況図及び天然色写真 3. 行為の施行方法を明らかにした縮尺 1:1,000 以上の平面図

※その他、餌動植物等の捕獲等、汚水又は排水の排出、支障となる動植物の放出、火入れ・たき火、車馬の乗入れ、有害物質(農薬等)の散布、支障のある方法での観察等については、環境大臣が指定する行為、区域、期間において規制される場合があるため、指定の有無や添付資料については相談窓口へお問い合わせください。

(参考)

生息地等保護区による保護

<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogoku/index.html>

生息地等保護区一覧

<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogoku/list.html>

4. 鳥獣保護管理法

(1) 個別法に関する問い合わせ先

- ・国指定鳥獣保護区：環境省地方環境事務所又は最寄りの自然保護官事務所
- ・都道府県指定鳥獣保護区：都道府県の自然公園担当部局

(2) 添付資料

地域区分	行為の種類	添付資料
特別保護地区 (国指定鳥獣保護区 / 都道府県指定鳥獣保護区)	全て共通	1. 行為の実施場所を明らかにした縮尺 1:50,000 以上の地形図 2. 行為地及びその付近の状況を明らかにした縮尺 1:5,000 以上の図面及び天然色写真（近景、遠景の写真及び行為の場所との関係を明らかにした撮影位置図） 3. 行為の実施方法を明らかにした縮尺 1:1,000 以上の平面図、立面図、断面図等図面 4. その他、行為の実施方法の確認のために必要な図面等

(参考)

鳥獣保護区制度の概要

<https://www.env.go.jp/nature/choju/area/area1.html>

5. 都市緑地法

(1) 個別法に関する問い合わせ先

- ・市の区域内：市の都市緑地担当部局
- ・町村の区域内：都道府県の都市緑地担当部局

(2) 添付書類

- ・市又は都道府県の都市緑地担当部局の指定による

(参考)

緑地保全地域の概要

https://www.mlit.go.jp/toshi/park/toshi_parkgreen_tk_000076.html

特別緑地保全地区の概要

https://www.mlit.go.jp/toshi/park/toshi_parkgreen_tk_000077.html

II. 様式 4－3 生態系維持回復事業

以下の特例を活用しようとする場合のみ、提出。

- ・ 法第 15 条第 3 項（自然公園法に基づく国立公園又は国定公園における生態系維持回復事業の確認又は認定の特例）
- ・ 法第 16 条第 3 項（自然環境保全法に基づく自然環境保全地域における生態系維持回復事業の確認又は認定の特例）

（１）個別法に関する問い合わせ先

- ・ 環境省地方環境事務所又は最寄りの自然保護官事務所

（２）添付書類

地域区分	行為の種類	添付資料
特別地域 / 特別保護地区 / 海域公園地 区 / 普通地 域	全て共通	1. 生態系維持回復事業を行う区域を明らかにした縮尺 1:25000 以上の地形図 2. 生態系維持回復事業の実施方法等を記載した生態系 維持回復事業実施計画書 3. 国及び地方公共団体以外の者が認定を受ける場合 は、自然公園法施行規則第 15 条の 6 第 1 号 1 及びロ の規定に該当しないことを説明した書類

（参考）

生態系維持回復事業

<https://www.env.go.jp/park/about/protect/ecosystem.html>

III. 様式 4－4 保護増殖事業

以下の特例を活用しようとする場合のみ、提出。

- ・ 法第 17 条第 3 項（種の保存法に基づく保護増殖事業の確認又は認定の特例）

(1) 個別法に関する問い合わせ先

- ・環境省地方環境事務所等

(2) 添付書類

必要に応じて以下の書類を添付すること。

- ①事業に関する費用の総額と主な内訳及び調達方法
- ②国及び地方公共団体以外の者の場合は、過去3年間の収支決算書、事業報告書
- ③事業実施区域及び当該区域の状況を明らかにした図面
- ④自己の土地でない場合は、地権者の同意書
- ⑤対象種の捕獲等を規制する他法令（例：文化財保護法）の有無と手続き状況について

(参考)

保護増殖事業について

<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/index.html>

保護増殖事業の確認・認定について

<https://www.env.go.jp/nature/kisho/hogozoushoku/kakunin.html>

IV. 様式4-5 特定外来生物の防除

以下の該当する特例を活用しようとする場合のみ、提出。

- ・法第19条（外来生物法に基づく特定外来生物の防除の確認又は認定の特例）

(1) 個別法に関する問い合わせ先

- ・環境省地方環境事務所又は最寄りの自然保護官事務所

(2) 添付書類

- ・区域図（適正な縮尺のもの）
- ・防除実施計画書
- ・申請者の略歴を記載した書類（申請者が市区町村以外の場合。なお、申請者が法人の場合は、過去3年間の活動実績、定款又は寄付行為、登記事項証明書並びにその役員の氏名及び略歴を記載した書類）

(参考)

外来種の防除

<https://www.env.go.jp/nature/intro/3control/index.html>

V. 様式 4－6 伐採等の届出

以下の該当する特例を活用しようとする場合のみ、提出。

- ・ 法第 20 条第 1 項（森林法に基づく伐採及び伐採後の造林の届出の特例）

（なお、法第 20 条第 2 項により、市町村が作成したその区域における認定増進活動実施計画又は認定連携増進活動実施計画に従って行われる伐採について森林法の特例を受ける場合には、特例に係る特段の様式は定められていないが、本様式を活用するなどして、伐採等の届出に関する事項を各活動実施計画において明らかにしておくことが望ましい。）

（１）添付書類

- ・ なし（ただし、以下の事項に留意してください。）

（２）留意事項

- ・ 特例に係る伐採の区域が分かるよう、サイト詳細シートの「サイトの基礎情報（区域図）」において、該当箇所を示すことが望ましい。
- ・ 境界杭などにより隣接する土地との境界が明らかでない場合には、越境による誤伐を防止する観点から、隣接する土地の所有者等の立ち会いのもと境界確認を行うことが望ましい。実施区域においてあらかじめ森林経営計画を作成し認定を受けている場合、同計画に基づく伐採及び造林については、森林法で規定する事前の伐採等の届出の義務は免除されるため、本特例を活用する必要はありません。

（参考）

伐採および伐採後の造林の届出等の制度

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/keikaku/todokede/batsuzoutodokede.html>

第6章 連携増進活動実施計画の必須様式

連携増進活動実施計画のみ項目がある内容を解説しております。増進活動実施計画と共通している項目は本手引き「第3章 Ⅲ. 様式1-2 増進活動実施計画（本体）」以降を参照してください。

Ⅰ. 様式2-2 連携増進活動実施計画（本体）

1. 概要

（1）連携増進活動実施計画の名称

40文字以内で計画名を記入してください。

（4）連携増進活動実施者

連携活動実施者を記入ください。複数いる場合は、全団体記入ください。

<記載例>

（1）連携増進活動実施計画の名称 (40文字以内)	(フリガナ) マルマルシサトチサトヤマホゼンカツドウジツケイカク 計画名称 ○○市里地里山保全活動実施計画
（2）計画期間	● 認定日～5年 ○ 認定日～指定の期日
（3）代表申請者	○○市
（4）連携活動実施者	○○の社の自然を守る会、NPO法人○○

（11）協議会

協議会の有無を選択してください。

（12）支援センター

支援センターの有無を選択してください。

<記載例>

（11）協議会	● 有 / ○ 無
（12）支援センター	● 有 / ○ 無

4. 連携地域生物多様性増進活動の促進のために必要な事項

（1）有機的に連携させるために実施する取組内容

各団体を有機的に連携させるための取り組みを記入ください。

<記載例>

(1) 有機的に連携させるために実施する取組内容

定期的な情報交換の機会の設定や、横断的なイベントの企画、活動に必要な知識・技術などの講習の実施など

(2) 連携増進活動協議会の内容（設置している場合）

協議会の名称、構成員、事務局、開催頻度などの記入ください。また、協議会の設置要綱等があれば、添付6として提出してください。

<記載例>

(2) 連携増進活動協議会の内容（設置している場合）

<協議会の名称>

〇〇市里地山保全活動協議会

<協議会の構成員>

〇〇市、〇〇の社の自然を守る会、NPO法人〇〇

<協議会の事務局>

〇〇市

<協議会の開催頻度>

年に〇回開催

(3) 地域生物多様性増進活動支援センターの内容（設置している場合）

支援センター名や支援センターの支援内容を記入ください。

<記載例>

(3) 地域生物多様性増進活動支援センターの内容（設置している又は設置予定の場合）

<支援センター名> ※これから設置予定の場合には、最後に「設置予定」と記載してください。

〇〇活動支援センター

<支援センターの支援内容>

活動のために必要な情報の提供や助言を行う拠点。各主体間における情報共有や連携促進の場として活用。

(4) (認定された場合) 生物多様性維持協定の締結

認定された場合に、生物多様性維持協定を締結予定かいずれかを選択してください。また、維持協定を締結する場合は締結予定時期を記入ください。

<記載例>

(4) (認定された場合) 生物多様性維持協定の締結

生物多様性維持協定の締結の予定	<div> <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし・未定 </div> <div> 締結予定の場合、想定される締結時期 </div> <div> <input checked="" type="radio"/> 認定後速やかに <input type="radio"/> その他 </div>
-----------------	---

II. 別紙 1 連携活動実施者記入シート

連携活動実施者の連絡先を記入してください。

第7章 参考資料集

I. 認定申請書

1. 増進活動実施計画 様式一式

(1) 様式1-1 申請書

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-1-1ApplicationFormApprovalEnhancement3.docx>

(2) 様式1-2 増進活動実施計画

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-1-2AttachPlan-ActivityEnhancement3.xlsx>

(3) 様式1-3 活動計画概要

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-1-3AttachPlan-OutlinePlan.pptx>

(4) 様式4-1 特例措置活用有無

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-4-1SpecialExceptionUtilizationList.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

2. 連携増進活動実施計画 様式一式

(1) 様式2-1 申請書

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-2-1ApplicationApprovalCollaborationList3.docx>

(2) 様式2-2 連携活動実施計画

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-2-2AttachCoordinationAndPromoActivities3.xlsx>

(3) 様式2-3 活動計画概要

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-2-3OutlineOfThePlan.pptx>

(4) 様式4-1 特例措置活用有無

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-4-1SpecialExceptionUtilizationList.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

3. 同意書フォーマット

(1) 様式 3 同意書サンプル (環境省)

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-3ConsentForm-Sample.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

(2) 公物等管理者の確認・同意について

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-Consentconfirm.pdf>

(3) 河川区域、砂防指定地、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、都市公園区域、道路区域、海岸保全区域、一般公共海岸区域、港湾関係区域 同意書サンプル (国交省 HP)

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/environment/sosei_environment_fr_000177.html

(4) 海岸保全区域、一般公共海岸区域、漁港区域、漁業権区域、保護水面 同意書サンプル (農林水産省 HP)

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/c_bd/tayousei.html

4. 特例措置を活用する場合

(1) 様式 4-2 行為規制等特例

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-4-2BehavioralExceptions.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

(2) 様式 4-3 生態系維持回復事業特例

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-4-3EcologyMaintainsRecoveryBusiness.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

(3) 様式 4-4 保護増殖事業特例

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-4-4ProtectionGrowthProject.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

(4) 様式 4-5 特定外来生物防除特例

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-4-5InvasiveSpeciesControlProject.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

[5IntroducedSpecies.docx&wdOrigin=BROWSELINK](#)

(5) 様式4－6 伐採等届出特定

[https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-4-6NotificationOfCuttingdownTree.docx&wdOrigin=BROWSELINK](#)

II. 手引き、活動手法、モニタリング手法

(1) 手引き（概要編）

[https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-gaiyou.pdf](#)

(2) 手引き（提出書類、記載例編）

[https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-submittsDocument.pdf](#)

(3) 別紙1 効果が期待できる活動手法

[https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-append01-ActivityMethodsEffect.pdf](#)

(4) 生態系タイプ毎の活動手法リスト

[https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-append01-Active-list.pdf](#)

(5) モニタリング手法リスト

[https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-append01-moniterling-list.pdf](#)

(6) 別紙2 生物多様性の価値

[https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-append02-ValueofBiodiversity.pdf](#)

(7) 指標昆虫モニタリングマニュアル（概要版）

[https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30siteIndicatorInsectMoniterManualSummary.pdf](#)

(8) 指標昆虫モニタリングマニュアル（詳細版）

[https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30siteIndicatorInsectMoniterManualDetailed.pdf](#)

[OsiteIndicatorInsectMonitorManualDetailIV.pdf](#)

- (9) 昆虫 20 選一覽

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30siteIndicatorInsectsheetlistAll.pdf>

- (10) 昆虫の見つけ方（環境省、YouTube 動画）

<https://www.youtube.com/playlist?list=PL9Gx55DGS7x5HYlQnPW8e0Kv1Ub7haer->

- (11) モニタリング 1000 調査マニュアル

<https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/>

III. GIS 作成マニュアル

- ## (1) GIS ポリゴンデータ作成マニュアル

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/30by30site-GIS-application-form7f.pdf>

- (2) 申請区域 GIS ポリゴンデータの作成 (ERCA、YouTube 動画)

<https://youtu.be/T-C78A4MDR8?si=tgx8CZczoRiUmVYK>

IV. 認定後の手続き様式

- (1) 様式5 変更認定申請書

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-5ApplicationForApprovalOfPlan.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

- (2) 様式6 実施状況報告書

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-6ImplementStatusReport.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

- (3) 様式7 軽微変更届出書

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-7NotificationOfMInorPlans.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

- (4) 様式8 中止等通知書

<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fpolicies.env.go.jp%2Fnature%2Fbiodiversity%2F30by30alliance%2Fdocuments%2FlowBio%2F30by30site-8NoticeOfDiscontinuance.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

V. 制度概要

(1) 地域生物多様性増進法 概要

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-LegalOverviewBiodiversityPromoAct.pdf>

(2) 条文

https://laws.e-gov.go.jp/law/506AC0000000018/20250401_0000000000000000

(3) 施行期日政令

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-CabinetOrderForEnforcement.pdf>

(4) 整備政令

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-seibiseirei.pdf>

(5) 施行規則

<https://laws.e-gov.go.jp/law/506M60001A00001>

(6) 基本方針

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-kihonhoushin.pdf>

(7) 地域生物多様性増進法の施行について

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-bio-zoushin.pdf>

(8) 生物多様性維持協定取扱指針について

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-bio-kyouteishishin.pdf>

(9) 地域生物多様性増進活動支援センターについて

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/kyousei/center/>

(10) 制度の概要：参考資料

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-bio-PromoActPaper.pdf>

(11) 事務取扱要領

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-handingguideline01ImplementationActivities.pdf>

(12) 審査の観点（認定基準）

<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/lowBio/30by30site-handingguideline02AppendixPerspect.pdf>